

土地分類基本調査

八 重

5万分の1

国 土 調 査

広 島 県

1 9 9 4

# はじめに

限りある国土を有効に利用するためには、その土地の属性を科学的方法で調査し、統一的に把握することが何より必要です。

こうした観点から、県は、昭和51年度から国土調査法に基づく土地分類基本調査を実施していますが、平成4年度は5万分の1地形図「八重」図幅の地域を調査しました。これがその成果です。

この調査の実施に当たって御協力をいただいた関係者各位に対し深く謝意を表するとともに、この報告書が、今後、土地利用の企画立案に当たって広く活用されることを願います。

平成6年3月

広島県県民生活部長 米 藤 弘 章

## <参考・平成4年度までに調査した図幅>

昭和51年度	「海田市」
昭和52年度	「庄原」, 「大竹」
昭和53年度	「広島」, 「津田」
昭和54年度	「乃美」, 「巖島」
昭和55年度	「府中」
昭和56年度	「尾道・土生」
昭和57年度	「可部」
昭和58年度	「竹原」
昭和59年度	「呉」
昭和60年度	「福山・魚島」
昭和61年度	「加計」
昭和62年度	「井原」
昭和63年度	「三津・今治西部」
平成元年度	「木都賀・三段峡」
平成2年度	「上下」
平成3年度	「大朝」
平成4年度	「八重」

# 目 次

## まえがき

## 総 論

I 位置及び行政区画	1
1 位 置	1
2 行政区画	1
3 町村別面積	2
II 地域の特性	3
1 地 勢	3
2 気 候	3
3 土地利用の概要	4
4 人口・世帯数	6
5 交 通	7
III 主要産業の概要	8
1 農 業	9
2 林 業	11
3 商 工 業	12
IV 開発の現況と方向	13

## 各 論

I 地形分類図	15
II 表層地質図	26
III 土 壌 図	34
IV 水系図及び谷密度図	56
V 傾斜区分図	59
VI 土地利用現況図	60

# ま え が き

- 1 この調査は、広島県が事業主体であり、広島県土地分類基本調査研究会（広島大学）の協力を得て行ったものである。
- 2 この調査は、自然条件のうち土地の基本的性格を形成している地形、表層地質、土壌の3要素を基礎とし、これに傾斜区分、水系・谷密度、土地利用現況を加味し、その結果を相互に有機的に組み合わせることによって科学的な土地利用の可能性を分類するものである。
- 3 この調査成果は、国土調査法施行令第2条第1項第4の3号の規定による土地分類基本調査図及び土地分類基本調査簿である。
- 4 この調査の実施、成果の作成機関及び担当者は、次のとおりである。

## 調査成果の作成機関及び担当者

指 導	国土庁土地局 国土調査課				
総 括	広島県県民生活部 土地対策課	課 長	小 滝 晃		
		課 長 補 佐	御堂河内 竜展		
		国土調査係長	藤 川 和 博		
		主任主事	平 本 勝 幸		
地形調査	広島大学文学部	教 授	藤 原 健 藏		
	東京都立大学理学部	助 教 授	堀 信 行		
	広島大学総合地誌研究資料センター	助 手	前 杢 英 明		
表層地質調査	広島県土地分類基本調査研究会	会 員	柴 田 喜 太 郎		
土壌調査	広島県立農業技術センター	環境研究部長	半 川 義 行		
		主任研究員	中 澤 征 三 郎		
		主任研究員	官 地 勝 正		
		主任研究員	松 浦 謙 吉		
		主任研究員	谷 本 俊 明		
	広島県立林業試験場	育種開発部長	水 野 邦 彦		
		研 究 員	升 原 一 介		

水系・谷  
密度調査

傾斜区分  
調査

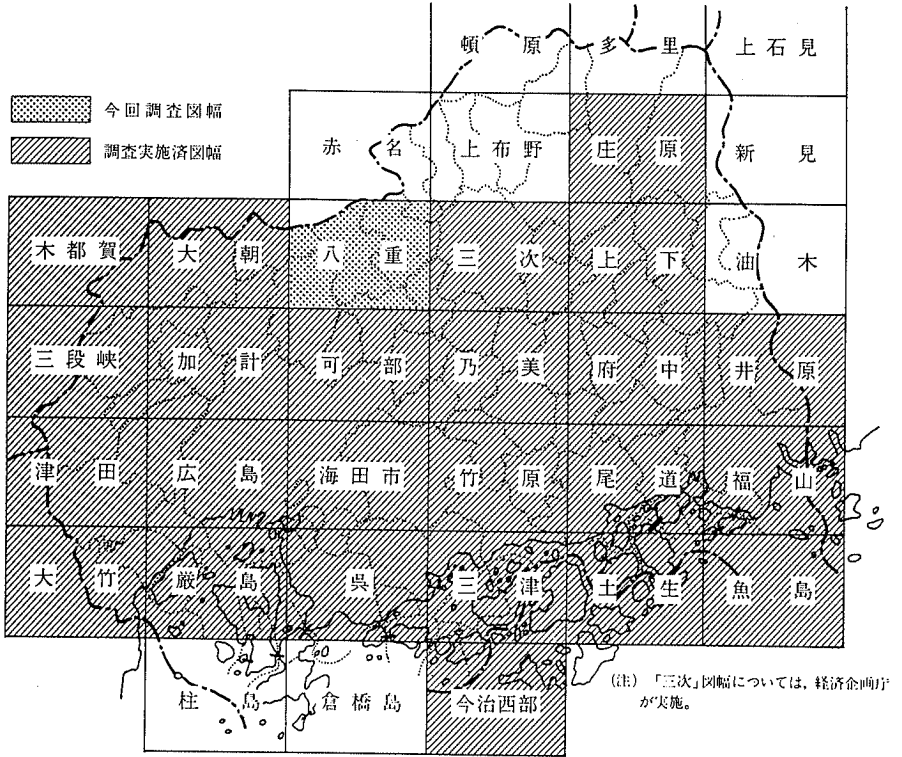
土地利用  
現況調査

広島大学文学部  
 東京都立大学理学部  
 広島大学文学部  
 東京都立大学理学部  
 広島大学総合地誌研究資料センター  
 広島大学大学院文学研究科  
 広島県立農業技術センター

広島県林務部林政課

研究員	涌嶋智
教授	藤原健藏
助教授	堀信行
助教授	藤原健藏
助教授	堀信行
助手	前李英明
	細矢卓志
環境研究部長	半川義行
主任研究員	中澤征三郎
主任研究員	宮地勝正
主任研究員	松浦謙吉
主任研究員	谷本俊明
主査(兼)	垣内孝正
森林計画係長	川上弘之
技師	

# 広島県土地分類基本調査実施状況



總

論

# I 位置及び行政区画

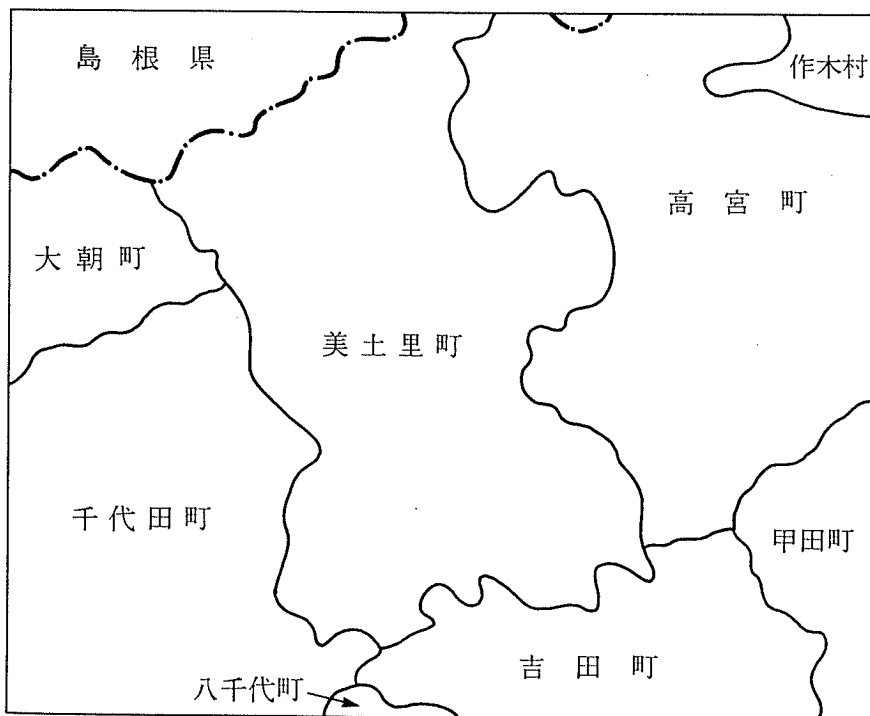
## 1 位置

この図幅は、広島県の北西部に位置し、経緯度は東経  $132^{\circ}30' \sim 132^{\circ}45'$ 、北緯  $34^{\circ}40' \sim 34^{\circ}50'$  で、図幅内の広島県域面積は  $390 \text{ km}^2$  である。

## 2 行政区画

この図幅内には大朝町、千代田町、吉田町、八千代町、美土里町、高宮町、甲田町及び作木村の8町村が含まれている。

図-1 行政区画図





### 3 面 積

この図幅内の町村別面積は、大朝町 21.3 km<sup>2</sup>、千代田町 77.9 km<sup>2</sup>、吉田町 38.3 km<sup>2</sup>、八千代町 1.2 km<sup>2</sup>、美土里町 120.9 km<sup>2</sup>、高宮町 102.3 km<sup>2</sup>、甲田町 19.4 km<sup>2</sup>、作木村 9.1 km<sup>2</sup>である。

表-1 町村別面積

(単位: km<sup>2</sup>, %)

町 村	図 幅 内 面 積		町村全面積 (B)	$\left(\frac{A}{B}\right) \times 100$
	実数 (A)	構成比		
大 朝 町	21.3	5.5	90.34	23.6
千 代 田 町	77.9	19.9	171.07	45.5
吉 田 町	38.3	9.8	84.81	45.2
八 千 代 町	1.2	0.3	50.60	2.4
美 土 里 町	120.9	31.0	123.25	98.1
高 宮 町	102.3	26.2	124.46	82.2
甲 田 町	19.4	5.0	72.94	26.6
作 木 村	9.1	2.3	92.25	9.9
合 計	390.4	100.0	809.72	48.2

資料：建設省「平成4年全国都道府県市区町村別面積調」(平成4年10月1日)  
ただし、甲田町は、双三郡三和町と境界の一部が未定のため昭和62年のものとした。

(注)：図幅内面積は、5万分の1地形図をプランメーターにより計測したものである。

## Ⅱ 地域 の 特性

### 1 地 勢

この図幅は、県北西部に位置し、比婆山山系と芸北山地の中間に位置している。

図幅北部の島根県境付近では、山地高度は、800 m～900 m となっているのに対し、図幅中部から南部では700 m以下となっており、低起伏の山地が多くなっている。

また、山麓・丘陵は、八重盆地や高宮盆地周辺部に見られ明瞭な傾斜変換線をもって山地に接している。

なお、この図幅の河川は、江の川水系である。

### 2 気 候

広島県の気候は、中国山地気候区、山陽気候区、瀬戸内気候区、中国西部気候区の四気候区に分類される。

この地域は、中国山地の南側にあつて中国山地気候区に属し、年平均気温は12℃前後、年降水量は1,100 mm～1,500 mm程度となっている。

夏は沿岸部に比べて涼しく、冬は日本海側からの季節風の影響により積雪が多い。このためこの図幅内の大半が豪雪地帯対策特別措置法による豪雪地帯指定地域となっている。

表一 2 月別気象状況

(単位：℃, mm)

区分		平成4年 月												平成4年 平均
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
最高 気温	大朝	5.9	5.7	10.0	16.8	19.6	23.2	27.7	27.5	24.0	18.5	13.5	8.3	16.7
	三次	7.6	7.7	11.8	18.9	21.5	25.5	29.8	29.7	25.8	20.4	14.7	9.1	18.5
最低 気温	大朝	-2.4	-2.7	0.6	3.9	7.6	12.0	17.9	20.5	14.1	7.7	1.7	-0.4	6.7
	三次	-0.3	-1.2	2.6	5.3	9.1	13.7	19.7	21.9	16.1	9.8	4.1	1.2	8.5
平均 気温	大朝	1.3	1.5	5.5	10.8	13.9	17.8	22.6	23.6	19.0	12.9	6.9	3.8	11.6
	三次	2.8	2.7	7.0	11.9	15.1	19.5	24.1	25.2	20.5	14.2	8.1	4.6	13.0
降 水 量	大朝	111	110	185	137	101	106	119	331	118	58	85	107	計 1,568
	三次	51	52	162	98	84	98	121	156	62	62	43	82	計 1,071

資料：広島地方気象台「広島県気象年報」

### 3 土地利用の概要

土地利用の概要を地目別にみると、表一 3 のとおり、行政区域全面積の 80.6 %が森林で、農地 8.8 %、宅地 1.3 %、雑種地 0.6 %、その他 8.7 %となっている。

図幅内町村の土地利用の状況をみると、地形上の特性から森林の割合が 80.6 %と県平均の 73.1 %に比べ高い。また、農地の利用は、県平均とほぼ同じ割合であるのに対し、宅地の利用は県平均に比べ著しく低くなっている。

表-3 土地利用の概要

(単位: ha, %)

町 村	総面積	宅 地	農 地			森 林	雑種地	その他
			合 計	田	畑			
大 朝 町	9,034 (100.0)	77 (0.8)	808 (8.9)	734 (8.1)	74 (0.8)	7,740 (85.7)	14 (0.2)	395 (4.4)
千代田町	17,107 (100.0)	296 (1.7)	1,600 (9.3)	1,460 (8.5)	137 (0.8)	13,735 (80.3)	199 (1.2)	1,277 (7.5)
吉 田 町	8,481 (100.0)	221 (2.6)	1,110 (13.1)	1,020 (12.0)	88 (1.1)	6,254 (73.7)	67 (0.8)	829 (9.8)
八千代町	5,060 (100.0)	104 (2.1)	287 (5.7)	246 (4.9)	41 (0.8)	3,884 (76.7)	93 (1.8)	692 (13.7)
美土里町	12,325 (100.0)	76 (0.6)	872 (7.1)	767 (6.2)	105 (0.9)	10,676 (86.6)	14 (0.1)	687 (5.6)
高 宮 町	12,446 (100.0)	94 (0.7)	1,210 (9.7)	980 (7.9)	225 (1.8)	9,832 (79.0)	46 (0.4)	1,264 (10.2)
甲 田 町	7,294 (100.0)	134 (1.8)	838 (11.5)	673 (9.2)	165 (2.3)	5,475 (75.1)	50 (0.7)	797 (10.9)
作 木 村	9,225 (100.0)	40 (0.4)	398 (4.3)	302 (3.3)	96 (1.0)	7,675 (83.2)	15 (0.2)	1,097 (11.9)
合 計	80,972 (100.0)	1,042 (1.3)	7,123 (8.8)	6,182 (7.6)	931 (1.2)	65,271 (80.6)	498 (0.6)	7,038 (8.7)
県 計	847,369 (100.0)	30,429 (3.6)	73,400 (8.7)	52,300 (6.2)	21,100 (2.5)	619,783 (73.1)	9,990 (1.2)	113,767 (13.4)

資料: 1 総面積…建設省国土地理院「平成4年全国都道府県市区町村別面積調」(平成4年10月1日現在)

2 宅 地…自治省「平成4年固定資産の価格等の概要調査報告書」(平成4年1月1日現在)

3 農 地…中国四国農政局広島統計情報事務所「広島農林水産統計年報」(平成3年8月1日)

4 森 林…「広島県林務部行政資料」(平成4年10月)

5 雑種地…2の宅地と同じ

6 その他…総面積から、宅地、農地、森林、雑種地を除いたもの

(注): ( )内は構成比

#### 4 人口・世帯数

この図幅内の8町村の人口は、表-4のとおり、平成2年10月1日現在47,460人で、昭和60年に比べ597人、1.2%減少している。

作木村の△8.7%をはじめ、高宮町、美土里町、甲田町、大朝町は、人口が減少しているのに対し、吉田町、八千代町は横ばい、千代田町は、交通の要所として近年企業立地が進んだことから人口が増加している。

表-4 町村別人口・世帯数

(単位：世帯，人，%)

町 村	昭和60年(A)		平成2年(B)		増減率 $(\frac{B}{A}-1) \times 100$	
	世帯数	人 口	世帯数	人 口	世帯数	人 口
大 朝 町	1,517	4,263	1,566	4,139	3.2	△2.9
千代田町	3,016	9,946	3,515	10,283	16.5	3.4
吉 田 町	3,482	11,466	3,686	11,527	5.9	0.5
八千代町	1,245	4,281	1,337	4,288	7.4	0.2
美土里町	1,177	3,996	1,166	3,811	△0.9	△4.6
高 宮 町	1,609	5,078	1,588	4,825	△1.3	△5.0
甲 田 町	2,003	6,588	1,980	6,361	△1.1	△3.4
作 木 村	812	2,439	765	2,226	△5.7	△8.7
合 計	14,861	48,057	15,603	47,460	5.0	△1.2

資料：「国勢調査報告」(昭和60年，平成2年)

## 5 交 通

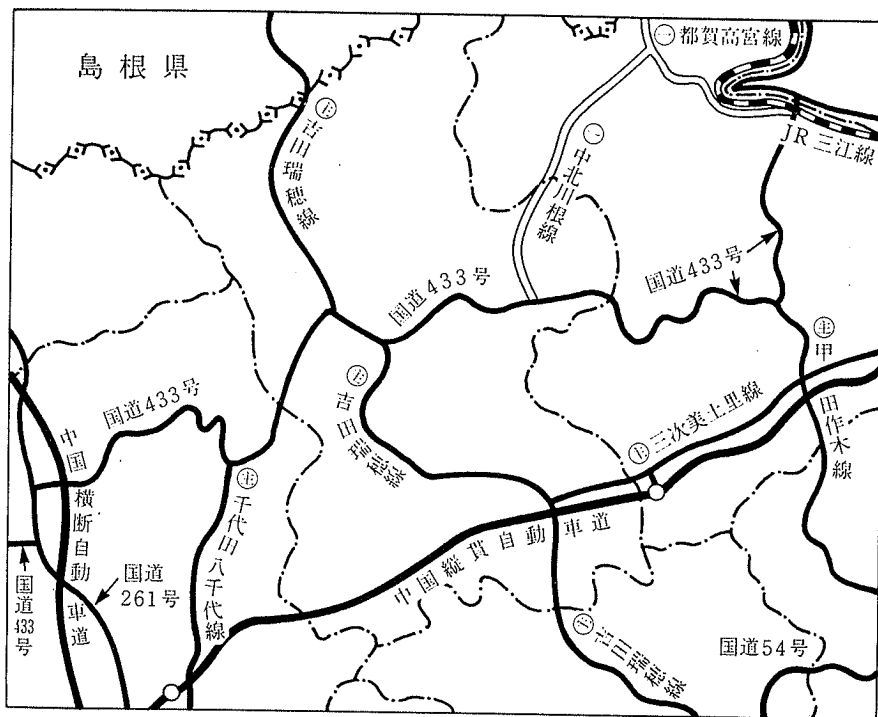
この図幅内の主要交通施設をみると、鉄道は JR 三江線がある。

三江線は、三次市と江津市を結ぶ鉄道路線で、この図幅内では、高宮町、作木村を通っている。

道路は、九州と京阪神方面を結ぶ高速自動車道として中国縦貫自動車道が高宮町、美土里町、千代田町を通り、山陽と山陰を結ぶ中国横断自動車道広島浜田線が千代田町、大朝町を通っている。また、国道では、433号が大竹市から三次市を結んでおり、千代田町、美土里町、高宮町を通っている。

このほか、主要地方道吉田瑞穂線、一般県道中北川根線が図幅の南北方向に走っている。

図-2 主要交通施設



(注) ⊕は、主要地方道である。

⊖は、一般県道である。

### Ⅲ 主要産業の概要

この図幅内の町村別、産業別就業人口は、表－５のとおりである。総数は、平成２年１０月１日現在 27,012人で、産業別にみると、第１次産業は 6,636人、24.6％、第２次産業は 9,668人、35.8％、第３次産業は 10,681人、39.5％となっている。

この地域は、第１次産業の比率が 24.6％と県平均の 6.3％を大きく上回っているのに対し、第３次産業の比率は 39.5％と県平均の 58.9％を大きく下回っている。

表－５ 産業別就業人口

(単位：人、％)

町 村	総 数	第 1 次 産 業		第 2 次 産 業		第 3 次 産 業	
		うち 農 業		うち 製 造 業		うち卸売 小売業等	
大 朝 町	2,173 (100.0)	539 (24.8)	512	718 (33.0)	428	913 (42.0)	235
千代田町	5,913 (100.0)	1,480 (25.0)	1,460	2,072 (35.0)	1,441	2,353 (39.8)	761
吉 田 町	6,450 (100.0)	1,184 (18.4)	1,175	2,199 (34.1)	1,789	3,057 (47.4)	869
八千代町	2,320 (100.0)	336 (14.5)	318	991 (42.7)	769	993 (42.8)	315
美土里町	2,413 (100.0)	815 (33.8)	804	869 (36.0)	653	728 (30.2)	180
高 宮 町	2,959 (100.0)	1,075 (36.3)	1,061	1,034 (34.9)	696	847 (28.6)	199
甲 田 町	3,525 (100.0)	716 (20.3)	713	1,412 (40.1)	1,120	1,395 (39.6)	510
作 木 村	1,259 (100.0)	491 (39.0)	482	373 (29.6)	199	395 (31.4)	93
合 計	27,012 (100.0)	6,636 (24.6)	6,525	9,668 (35.8)	7,095	10,681 (39.5)	3,162
県 計	1,414,268 (100.0)	88,934 (6.3)	80,872	486,415 (34.4)	350,447	832,912 (58.9)	319,565

資料：「国勢調査報告」(平成２年)

(注)：( )内は構成比。総数には、分類不能の産業を含む。

## 1 農 業

図幅内の町村の総農家数は、7,991戸で、専業別の割合は概ね県全体と同様の傾向を示しているが、第1種兼業農家の割合がやや高く、第2種兼業農家の割合がやや低くなっている。

農業粗生産額は、表-7のとおりで、米の割合が全体の53.6%と最も高く、次に畜産が30.4%となっている。一方、野菜と果実は合わせて11.5%と県平均の26.3%に比べ非常に低い割合となっている。

表-6 専業別農家数

(単位: 戸, %)

町 村	総農家数	専業農家	第1種兼業農家	第2種兼業農家
大 朝 町	707 (100.0)	110 (15.6)	92 (13.0)	505 (71.4)
千代田町	1,796 (100.0)	313 (17.4)	177 (9.9)	1,306 (72.7)
吉 田 町	1,378 (100.0)	278 (20.2)	54 (3.9)	1,046 (75.9)
八千代町	507 (100.0)	90 (17.7)	11 (2.2)	406 (80.1)
美土里町	879 (100.0)	149 (16.9)	86 (9.8)	644 (73.3)
高 宮 町	1,210 (100.0)	286 (23.6)	80 (6.6)	844 (69.8)
甲 田 町	968 (100.0)	180 (18.6)	74 (7.6)	714 (73.8)
作 木 村	546 (100.0)	140 (25.7)	64 (11.7)	342 (62.6)
合 計	7,991 (100.0)	1,546 (19.3)	638 (8.0)	5,807 (72.7)
県 計	102,936 (100.0)	19,989 (19.4)	6,031 (5.9)	76,916 (74.7)

資料: 農林水産省「1990年世界農林業センサス」

(注): ( )内は構成比



表一 7 農業粗生産額(平成3年)

(単位:100万円,%)

町 村	農 業 粗生産額	う ち 米	う ち 野 菜	う ち 果 実	う ち 畜 産
大 朝 町	1,008 (100.0)	689 (68.4)	125 (12.4)	2 (0.2)	169 (16.8)
千 代 田 町	2,431 (100.0)	1,482 (61.0)	240 (9.9)	5 (0.2)	623 (25.6)
吉 田 町	1,806 (100.0)	1,040 (57.6)	161 (8.9)	20 (1.1)	506 (28.0)
八 千 代 町	663 (100.0)	246 (37.1)	94 (14.2)	4 (0.6)	137 (20.7)
美 土 里 町	1,582 (100.0)	733 (46.3)	138 (8.7)	12 (0.8)	645 (40.8)
高 宮 町	2,515 (100.0)	1,165 (46.3)	131 (5.2)	30 (1.2)	1,135 (45.1)
甲 田 町	1,123 (100.0)	677 (60.3)	124 (11.0)	88 (7.8)	204 (18.2)
作 木 村	607 (100.0)	254 (41.8)	58 (9.6)	118 (19.4)	153 (25.2)
合 計	11,735 (100.0)	6,286 (53.6)	1,071 (9.1)	279 (2.4)	3,572 (30.4)
県 計	140,161 (100.0)	48,142 (34.3)	21,474 (15.3)	15,357 (11.0)	43,622 (31.1)

資料:中国四国農政局広島統計情報事務所

「広島農林水産統計年報」(平成3年~平成4年)

(注):( )内は構成比

## 2 林 業

この図幅内の町村の民有林面積は、61,275 ha、森林蓄積量は7,406 千 $m^3$ である。

天然林は、大部分がマツと広葉樹で占められているのに対し、人工林は、大部分がヒノキとスギで占められている。

表一 8 森林面積等（平成4年3月31日現在）

（単位：ha, 1,000 $m^3$ , %）

町 村	民 有 林 面 積	蓄 積 量	人 工 林 面 積	人工林率	国 有 林 面 積
大 朝 町	7,534	1,035	2,924	38.8	206
千 代 田 町	13,519	2,152	3,128	23.1	217
吉 田 町	5,942	709	954	16.1	312
八 千 代 町	3,884	353	1,173	30.2	0
美 土 里 町	8,631	884	2,055	23.8	2,045
高 宮 町	9,072	919	1,550	17.1	760
甲 田 町	5,025	592	659	13.1	414
作 木 村	7,668	762	2,897	37.8	7
合 計	61,275	7,406	15,340	25.0	3,961

資料：「広島県林務部行政資料」（平成4年10月）

### 3 商 工 業

この図幅内の町村の商業の概要をみると、平成3年7月1日現在で商店数831、従業者数3,045人であり、年間商品販売額（平成2年7月1日から平成3年6月30日まで）は、約568億円で、その59.2%を千代田町と吉田町が占めている。

工業についてみると、平成3年12月末現在で事業所数272、従業者数7,185人であり、製造品出荷額（平成3年1月1日から平成3年12月31日まで）は、約1,786億円で、その66.4%を千代田町と吉田町が占めている。

表-9 商工業の概要

（単位：人，100万円，％）

町 村	商 業（平成3年）			工 業（平成3年）		
	商店数	従業者数	年間商品販売額	事業所数	従業者数	製造品出荷額等
大朝町	74 (8.9)	268 (8.8)	3,656 (6.4)	19 (7.0)	379 (5.3)	2,776 (1.6)
千代田町	201 (24.2)	801 (26.3)	17,061 (30.1)	75 (27.6)	2,226 (31.0)	70,217 (39.3)
吉田町	214 (25.7)	855 (28.1)	16,541 (29.1)	67 (24.6)	1,884 (26.2)	48,356 (27.1)
八千代町	58 (7.0)	169 (5.6)	4,073 (7.2)	34 (12.5)	802 (11.2)	21,759 (12.2)
美土里町	61 (7.3)	183 (6.0)	2,640 (4.7)	16 (5.9)	334 (4.6)	4,983 (2.8)
高宮町	70 (8.4)	214 (7.0)	2,219 (3.9)	19 (7.0)	453 (6.3)	7,719 (4.3)
甲田町	116 (14.0)	481 (15.8)	10,125 (17.8)	35 (12.8)	924 (12.9)	21,144 (11.8)
作木村	37 (4.5)	74 (2.4)	475 (0.8)	7 (2.6)	183 (2.5)	1,615 (0.9)
合 計	831 (100.0)	3,045 (100.0)	56,790 (100.0)	272 (100.0)	7,185 (100.0)	178,569 (100.0)
県 計	51,235	289,533	16,768,280	9,621	287,685	9,433,874

資料：広島県企画振興部情報統計課「平成3年商業統計調査結果報告」

〃 「平成3年工業統計調査結果報告」

- (注)：1 商業は、卸売業・小売業  
 2 工業は、従業者4人以上の事業所  
 3 ( )内は構成比

## Ⅳ 開発の現況と方向

この地域は、広島県の北西部に位置し、人口の過疎化、高齢化が進み、ほぼ全域が過疎地域活性化特別措置法に基づく過疎地域になっている。またほぼ全域が山村振興法に基づく振興山村指定地域になっている。

この地域の開発動向を見ると、平成3年12月に山陽と山陰を結ぶ中国横断自動車道広島浜田線が全線開通し、これにより一般道を通して3時間かかる広島～浜田間が1時間半で結ばれることになった。この中国横断自動車道を活用した活力ある町づくりに寄せる期待は大きいものがある。

また、中国縦貫自動車道高田インターチェンジ周辺では、県の工業団地の造成等に伴い、今後更に、企業立地が進むものと思われる。

すなわち、2つの自動車道の開通により、京阪神及び北九州方面そして山陰への市場圏拡大等産業の振興を図りつつ、企業の生産と流通が表裏一体となったしっかりした産業基盤が形成されることが期待される。

農林関係の開発動向としては、公社営畜産基地建設事業、広域営農団地農道整備事業、ほ場整備事業など各種の基盤整備が着実に進行している。

観光面では、観光農園への入場、自然探勝等を中心に推移してきたが、平成2年には、広島ニュージーランド村・レインボーファームのオープンとともに、飛躍的に入込観光客数が増加している。今後、県外客の誘致拡大とともに、日帰り客を宿泊客にするためのハード・ソフト両面にわたる積極的な施策の展開が期待されている。

したがって、今後の土地利用、県土保全にあたっては、地域の特性を生かすとともに、優れた自然環境や景観に配慮し、秩序ある開発を行い、適正な県土の利用を図る必要がある。

# 各論

# I 地形分類図

## 1 地形の概要

本地区は広島県北西部に位置し、比婆山山系と芸北山地の中間にあたる。山地の高度は、図幅北部の島根県境付近ではおおむね800～900mであり、標高1,000mを越える山はない。唐代山(814m)をはじめ、雉子の目山(897m)、犬伏山(791m)などの山々が連なる。図幅中部から南部では山地高度は500～700mになり、低起伏の山地が多くなる。本図幅は、日本海に注ぐ江の川水系の上流部にあたり、その本流や支流が北東部の三次盆地に向かって流れる。図幅北西部には大朝盆地につながる山間盆地が見られる。また、同様な山間盆地は図幅南西部および中東部にも発達する。

本地区の山地地形の特徴は、北部のいくつかの山の山頂部に、侵食小起伏面と呼ばれる山頂平坦面が発達していることである。この平坦面は、ほぼ中国地方全域に分布する3段に大別される侵食小起伏面(高位面, 中位面, 低位面)のうち、中位面の八幡高原面(吉備高原面)に対比されている。中位面は第三紀中新世以降形成された侵食面である。侵食小起伏面は山頂部や尾根のみでなく、高位の谷底として残されている場合がある。標高400～600mの高度に、面積は狭いながら、浅く谷壁の傾斜が緩やかな谷が各所に分布している。これらの谷は、前輪廻の侵食基準面に規定されて形成されたものと推定され、上述した八幡高原面にあたると思われる(図-3)。

狭義の谷底平野(沖積平野)は、八重付近や羽佐竹付近など比較的規模の大きい江の川の本・支流沿いに、幅1km以下でわずかに発達するのみで、ほとんどの支流沿いには平野と認定できるほどの平坦面は分布せず、山地斜面が直接河床に接している場合が多い。また、側方からの支流の出口には、小規模な沖積錐が発達している場合がある。これらの沖積錐は、地形や堆積物の特徴から過去の土石流によって形成されたものと推定され、大河川が山間部から平野に流れ出てくる場所に形成される扇状地とは形成過程が異なるものである。また、本村川沿いの横田付近には数段の河成段丘が発達している。この段丘面は原田付近で沖積面にそのまま移行する。おそらく横田付近の本村川は、かつて原田付近を通して北に流れていたが、南東部からの谷頭侵食がすすみ、現在の本村川の方へ流れが奪われた、河川争奪地形と考えられる。これらの段丘の形成年代は明らかにされていないが、やや淘汰された砂礫層で構成されている。

八重盆地や高宮盆地周辺部には、小起伏の山麓地や丘陵が分布している。ま

た、この山麓地・丘陵は明瞭な傾斜変換線をもって山地に接している。これは、山地が抵抗性の強い流紋岩質岩石で構成されているのに対し、山麓地やその他の小起伏の丘陵は深層風化の進んだ花崗岩質岩石もしくは第三紀層からなっているためと考えられる。

本図幅には崩壊地形は比較的少なく、小さな崩壊地形は、図幅南西部の権現山、平家ガ城山南側斜面の旧傾斜地にやや集中的に分布している程度である。

本地域は広島市の都心部から隔たった位置にあるため、宅地開発などによる大規模な地形の人工改変はほとんど見られない。

## 2 各地形区の特徴

### I 山地

#### I a 坂根山地

本山地は図幅北東端に位置し、標高200～300mの小起伏の山地である。山地は定高性のある侵食面が発達し、三次盆地方面へ連続している。侵食面上には前輪廻谷とよばれる浅い谷があり、現河床とは滝や深谷などの急激な傾斜変換点をもって区切られている。

#### I b 面山山地

本山地は高宮盆地北部に位置し、面山(486m)を最高峰とする小起伏の山地である。本山地はほとんどが黒雲母花崗岩からなる小起伏山地であり、なだらかな丘陵に近い山容を呈する。山地は定高性のある侵食面が発達し、侵食面上には前輪廻谷とよばれる浅い谷がみられる。

#### I c 高小屋山山地

本山地は図幅南東端に位置し、高小屋山(520m)を中心とする中起伏山地からなる。また、本山地は高田流紋岩とよばれる白亜期末の流紋岩からなる。山地南斜面には比較的規模が大きい沖積錐が発達する。

#### I d 羽須美山地

本山地は図幅北端部の島根県境に位置する、標高300m前後の小起伏の山地である。また、本山地の西部は流紋岩質岩石、東部は花崗岩質岩石からなるが地形的特徴には顕著な違いは認められない。西側を流れる江の川本流へ合流する支谷の出口には、開析が進んだ沖積錐が発達する。

### **I e 熊谷山山地**

本山地は図幅北東部、高宮盆地の北西に位置し、熊谷山(512m)を中心とする小起伏山地からなる。本山地の地質は主として高田流紋岩である。山頂部には定高性のある侵食面が広く発達し、侵食面上には比較的幅の広い前輪廻谷とよばれる浅い谷がみられる。

### **I f 大狩山山地**

本山地は図幅中央部に位置し、大狩山(591m)を中心とする小起伏山地である。本山地の地質は主として高田流紋岩からなっている。本山地の周辺部には小規模な沖積錐がほとんどすべての谷の出口に発達している。崩壊地は山地北部にわずかに分布している程度である。

### **I g 風越山山地**

本山地は図幅南東部に位置し、風越山(555m)を中心として北東-南西方向に延びた小起伏の山地である。本山地の地質は主として高田流紋岩からなっている。風越山山頂部付近はきわめて起伏が小さい侵食面が広く発達し、その侵食面上には袋状の谷が数ヶ所でみられる。崩壊地や沖積錐の発達は比較的悪い。

### **I h 烏帽子山山地**

本山地は図幅南端部に位置し、烏帽子山(529m)を含む中起伏の山地である。本山地は南側に接する可部図幅へと連続する。本山地の地質は主として高田流紋岩からなっている。本山地の東側にはやや開析された沖積錐が発達する。

### **I i 犬伏山山地**

本山地は図幅中北部に位置し、犬伏山(791m)を中心とする中起伏山地である。犬伏山山地は、東西約9km、南北約8kmで比較的大きな山塊である。本山地の地質は主として高田流紋岩からなっている。犬伏山山頂部付近には侵食小起伏面や、前輪廻谷とよばれる浅い袋状の谷が発達している。また、山頂部南側には顕著な崩壊地がみられる。



### I j 郷山地

本山地は図幅中央部に位置し、北西—南東方向に延びる標高500~650mの小起伏山地である。本山地の地質は主として高田流紋岩からなっている。本山地周辺には沖積錐が比較的よく発達している。また、山地北東側の生田川沿いには河成段丘がわずかながら分布している。

### I k 頭ヶ津古山山地

本山地は図幅の中部に位置し、頭ヶ津古山(716m)を中心とする中起伏の山地である。また、山地南端部には標高600mを越える火神城山が、八重盆地の北部に衝立のように明瞭な傾斜変換線でもって立ちはだかっている。本山地の地質は主として高田流紋岩からなっている。火神城山山頂部北側には崩壊地形がみられる。

### I l 塩瀬山地

本山地は頭ヶ津古山山地と津々羅山山地との間に位置し、北東—南西方向に楔状に延びた小起伏山地である。山地高度は500~600m程度である。本山地の地質は主として高田流紋岩からなっている。広森付近には傾斜が緩やかで比較的幅の広い沖積錐性の斜面が発達している。

### I m 津々羅山山地

本山地は図幅の南端に位置する、津々羅山(698m)を中心にした中起伏の山地である。本山地の地質は主として高田流紋岩からなっており、山地の方向は地質構造線に規定されて北東—南西方向の谷にそって延びている。沖積錐の発達が悪く、山地の北西側にわずかに分布する程度である。

### I n 雉子の目山山地

本山地は図幅北西部の島根県境に位置する、雉子の目山(897m)を中心にした中起伏の山地である。本山地の地質は主として高田流紋岩からなっている。山地北部の上平山東方には山頂緩斜面および高位の前輪廻谷が発達している。また、雉子の目山山頂付近には崩壊地が数ヶ所みられる。大朝盆地との境界は地質の違いによって明瞭な傾斜変換線によって区切られる。

### **I o 大塩山山地**

本山地は図幅西部にあたり、大塩山(598m)、鷹巣山(700m)、文蔵山(655m)などの山々を含む中起伏の山地である。本山地の地質は主として高田流紋岩からなっている。沖積錐はあまり発達していないが、山地南部の江の川本流沿いに河成段丘が分布する。西隣の大朝盆地との境界は明瞭な傾斜変換線によって区切られている。

### **I p 平家ヶ城山山地**

本山地は図幅の南西部に位置し、平家ヶ城山(619m)を中心とする中起伏の山地である。本山地の地質は主として高田流紋岩からなっている。平家ヶ城山山頂北側には侵食小起伏面が発達している。また、山頂周辺の急傾斜地には崩壊地形が比較的多く分布している。江の川本流に合流する支谷には典型的な沖積錐が発達している。八重盆地との境界部は明瞭な傾斜変換線がみられる。これは山地が比較的硬い流紋岩からなるのに対して盆地周辺の丘陵地は風化の進んだ花崗岩質岩石からなるためと考えられる。

### **I q 保余原山地**

本山地は図幅南端にあたり、保余原付近を含む小～中起伏の山地である。本山地は南側に接する可部図幅の堂床山山地へと連続する。本山地の地質は主として高田流紋岩からなっている。本山地は土師ダムによってせき止められてきた八千代湖の西側に位置している。

### **I r 唐代山山地**

本山地は図幅の北西端に位置する唐代山(814m)を含む中起伏の山地である。唐代山は島根県との県境に位置し、西隣の大朝図幅の寒曳山山地に連続する。本山地は大朝盆地の北側を限るもので、地質は主として高田流紋岩からなっている。

### **I s 火野山山地**

本山地は図幅西端にあたり、西隣の大朝図幅の火野山山地に連続する標高400～600mの小起伏の山地である。花崗岩からなるなだらかな山容は、その周辺の流紋岩からなる山地ときわめて対照的である。

## II 丘陵地

### II a 高宮丘陵地

図幅東部にある本丘陵地は、ほとんどが起伏量が比較的小さい丘陵地Ⅰに分類されるが、南東部の上甲立付近は起伏量が比較的大きい丘陵地Ⅱが分布する。本丘陵地は花崗岩質岩石および甲立礫層とよばれる古第三紀の砂礫層からなる。丘陵の標高はおおよそ300~350mである。丘陵地は小起伏山地によって周囲を囲まれ、流紋岩からなる山地とは明瞭な傾斜変換線によって隔てられている。

### II b 大朝丘陵地

大朝図幅に続く本丘陵地は、起伏量が比較的小さい丘陵地Ⅰと東部の山地に隣接する岩戸付近では起伏量が比較的大きい丘陵地Ⅱが分布する。本丘陵地は花崗岩質岩石からなる。丘陵の標高はおおよそ400~500mである。丘陵地は小~中起伏山地によって囲まれ、流紋岩からなる東部の山地との間には明瞭な傾斜変換線が存在する。

### II c 千代田丘陵地

本丘陵地は図幅南西端に位置し、八重低地を取り巻く形で発達している。比較的小さい起伏量が丘陵地Ⅰがそのほとんどを占めているが、わずかながら起伏量が大い丘陵地Ⅱが分布する。丘陵の標高は350m内外で、小~中起伏の山地に囲まれている。花崗岩からなる本丘陵地は、流紋岩からなる北部山地とはきわめて明瞭な傾斜変換線をもって隔てられている。

## III 台地

### III a 横田台地

本台地は大狩山山地と風越山山地とに南北をはさまれた本村川がつくる谷に沿って分布している。本台地は砂礫層からなる河成段丘が発達する。この河成段丘は細かく分類するとさらに2~3段に分けることができる。この河成段丘面は上沖城付近で北側に向かって沼川がつくる沖積面に連続していく。上沖城より上流の本村川に沿って発達するこの河成段丘は、本村川が河川争奪され南東流することによって形成されたものと考えられる。

#### IV 低 地

##### IV a 吉田低地

図幅南東部に位置する本低地は吉田盆地とも呼ばれ、標高200~250m程度の高度に発達する盆地状の低地の北西部にあたる。本図幅に含まれる低地は江の川の支流である多治比川によって形成されたものである。本低地は丘陵などを介さず直接中起伏山地に囲まれているため、低地の幅は広くて1km程度である。

##### IV b 千代田低地

図幅南西端に位置する本低地は、千代田丘陵地に囲まれた最大幅1km程度の小規模な山間低地である。標高は250~300m程度であり、吉田低地より上流にあるためやや高くなっている。江の川本流とその支流の志路原川は、本低地東部の壬生付近で合流し、八千代湖に注いでいる。

広島大学文学部

藤 原 健 藏

東京都立大学理学部

堀 信 行

広島大学総合地誌研究資料センター

前 李 英 明

## 参 考 文 献

- 木野崎吉郎ほか(1963)：広島県地質図，広島県  
地質調査所(1991)：日本地質図大系，中国・四国地方，朝倉書店  
藤原健藏(1980)：中国地方の侵食小起伏面研究の諸問題，西村嘉助先生退官記念地理学論文集，159-164  
藤原健藏・成瀬敏郎(1977)：自然的基礎，「広島県史一地誌編」，広島県，13

図-3 八重図幅の起伏量メッシュ

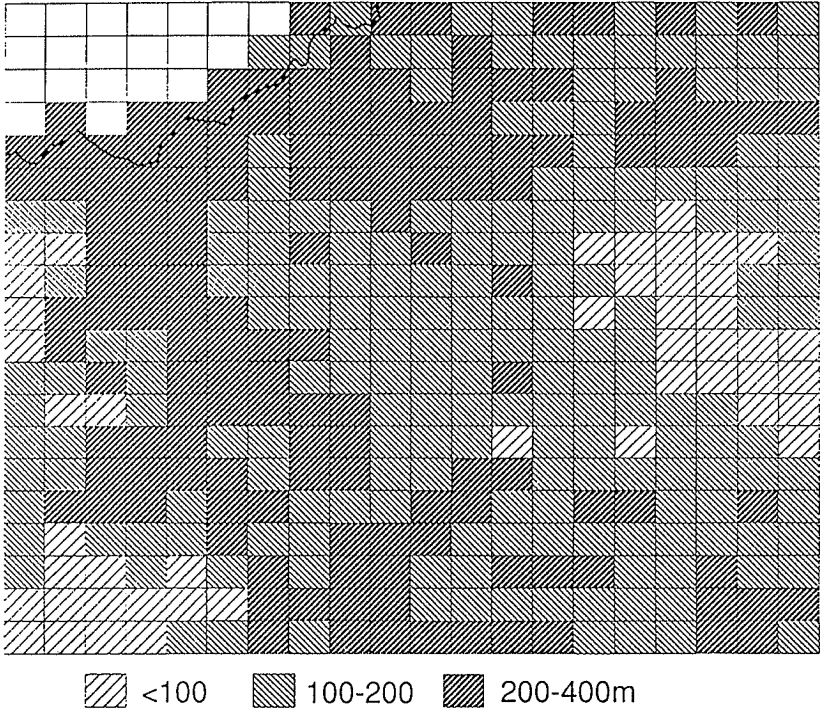




写真 1  
千代田丘陵地を構成する風化花崗岩



写真 2  
横田台地の河成段丘を構成する砂礫層



写真 3  
面山から高宮丘陵地を望む

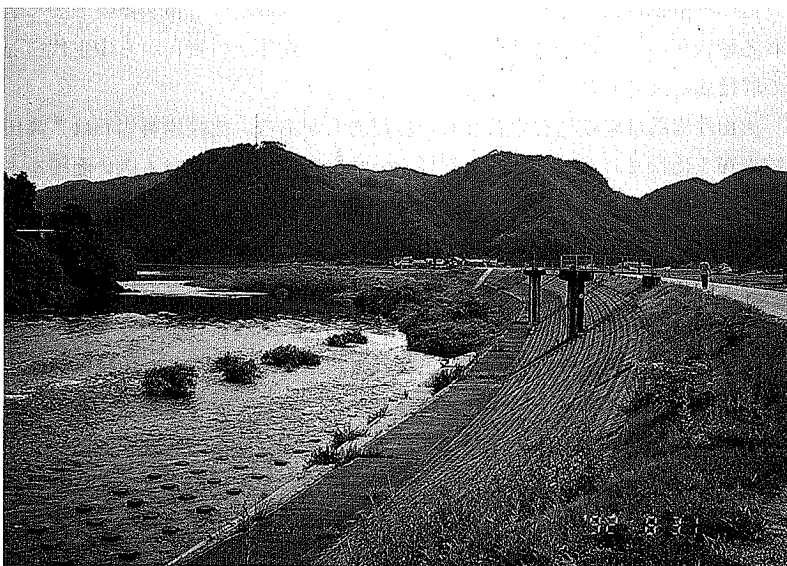


写真 4  
作木村樨矢付近の蛇行する江の川本流



## Ⅱ 表層地質図

### 1 表層地質の概要

「八重」図幅の範囲には未固結・半固結・固結堆積物と火山性岩石及び深成岩が分布している。

未固結堆積物は沖積層・段丘堆積物・原田原累層・甲立礫層（高位段丘堆積物）があり、沖積層は志路原川・江の川・桑田川流域と支流の流域に分布している。段丘堆積物は地形図に記入できない狭い範囲のものも見られるが、中でも生田川の流域の出店・雁子原・川堀と若幡川流域の前側にやや広い分布が見られる。原田原累層は美土里町横田から原田にかけて分布する。甲立礫層（高位段丘堆積物）は本図幅の東部に見られ、高宮町野々原から原山にかけての地域、門田、表郷周辺、甲田町大城周辺に分布する。未固結堆積物は全て第四紀に形成されたものと考えられるが、中でも段丘堆積物・原田原累層・甲立礫層は洪積世の形成に成るものと考えられる。

半固結堆積物は備北層群に含まれる砂岩・礫岩と泥岩・頁岩があり、作木村大山周辺、高宮町森原、前側、佐々部に分布する。備北層群は新生代第三紀中新世の海成層で、海棲軟体動物の化石を含む。

固結堆積物は大朝町棚原、千代田町川戸、惣森周辺に分布する藤原層に含まれる砂岩がある。本層には化石は含まれないが層序上の資料から中生代白亜紀の堆積層と考えられる。

火山性岩石は流紋岩質岩石とヒン岩質岩石がある。流紋岩質岩石は“高田流紋岩類”に含まれるもので、本図幅中の中央部分を南北に最も広い面積を占め、他に“古期花崗岩類”中に小貫入岩体として見られる。ひん岩質岩石は小規模な貫入岩体として見られ、“高田流紋岩類”と後述する“古期花崗岩類”に貫入している。

深成岩は花崗斑岩質岩石と2種類の花崗岩、閃緑岩質岩石からなる。花崗斑岩質岩石は“高田流紋岩類”と“古期花崗岩類”中に貫入し、本図幅の略中央部分に東西に伸びるレンズ状の岩体が南北に配列している。他に高宮町来女木・西田・三田谷周辺に小岩体が見られる。花崗岩は図幅の西部大朝町から千代田町にかけての範囲に分布する“広島型花崗岩”と図幅の東北部高宮町房後から北に作木村にかけて分布する“古期花崗岩類”がある。前者では“高田流紋岩類”や藤原層などと接する部分に急冷による細粒相が見られる。閃緑岩質岩石は高宮町野部周辺と美土里町上城に小規模の貫入岩体が見られる。

表-10 八重図幅中の地層及び岩石一覧

地質時代		地質系統	地層地質区分		
新生代	第四紀	沖積世	沖積層	砂・粘土・礫	未固結堆積物
		洪積世	段丘堆積物	砂・シルト・礫	
	原田原累層 甲立礫層		〃 〃		
第三紀	中新生	備北層群	泥岩・頁岩 砂岩・礫岩	半固結堆積物	
中生代	白亜紀	花崗岩	花崗岩質岩石 (広島型花崗岩)	深成岩	
		閃緑岩	閃緑岩質岩石		
		ヒン岩	ヒン岩質岩石	火山性岩石	
		花崗岩 斑岩	花崗岩質岩石 (古期花崗岩類) 花崗斑岩質岩石	深成岩	
		流紋岩	流紋岩質岩石 (高田流紋岩類)		
		藤原層	砂岩質岩石	固結堆積物	

## 2 表層地質の細説

### I 未固結堆積物

#### I a 砂・粘土・礫(SCg) (沖積層)

未固結堆積物に分類される沖積層は砂・粘土・礫からなる。大朝町や千代田町、吉田町、高宮町、作木村を流れる志路原川・江の川(可愛川)・本村川・生田川などの河川流域に広い氾濫原を形成して分布している。千代田町沼では河川西側の水田下に泥炭層が分布している。本図幅の範囲内では沖積層を直接ボーリングしている例は無いが、中小河川の流域では沖積層の厚さは5m前後、本流域でも最大10m前後と推定される。

#### I b 砂・シルト・礫(Td) (段丘堆積物)

段丘堆積物は本図幅では分布する範囲は狭い。段丘堆積物は地形図に記入できない狭い範囲のものもあるが、中でも美土里町の北部を東に流れる生田

川の流域の出店・雁子原・川堀と若幡川流域の前側や千代田町明智にやや広い分布が見られる。堆積物は流紋岩類や花崗斑岩、石英斑岩などの礫を含む砂質～シルト混じりの砂礫からなる。所によって有機質黒色シルト（クロボク土壌）に被われている。

### I c 砂・シルト・礫(Hf) (原田原累層)

原田原累層は美土里町横田から原田にかけて分布する。堆積物はシルト混じりの砂の基質の中に細礫～大礫を含む粗粒な堆積物からなる。含まれている礫は流紋岩類や花崗斑岩の円礫～亜円礫からなる。層厚は最大でも20mを越えないものと考えられる。本累層に含まれている礫は風化の程度が弱く硬い。広島県地質図幅では原田原累層は西条層に対比されているが確たる証拠はない。

### I d 砂・シルト・礫(HTd) (甲立礫層)

甲立礫層（高位段丘堆積物）は本図幅の東部に見られ、高宮町野々原から原山にかけての地域、門田、表郷周辺、甲田町大城周辺の高度300m前後の平坦面上に分布する。礫は粒径20～30cm前後の著しく風化し小さき礫化した花崗岩・花崗斑岩・石英斑岩等の酸性火成岩類の円礫～亜円礫からなり、シルト・粘土質の基質に含まれ時に砂層のレンズが見られる。本層を形成する堆積物は化石を含まないので正確な年代は明らかではないが、層相他から形成年代は鮮新世後期（今村1953）と考えられている。層厚は20m以下である。

## II 半固結堆積物

### II a 泥岩・頁岩(Tsh)・砂岩・礫岩(Tss) (備北層群)

本図幅の範囲に分布する半固結堆積物には備北層群があり、泥岩・頁岩等の細粒物からなる上部層と砂岩・礫岩からなる下部層に分けられる。分布する範囲は図幅の東部に限られ、作木村大山周辺、高宮町森原、前側、佐々部周辺で範囲は狭い。これらの地域に見られる備北層群は構造的には水平層に近い緩傾斜で堆積し、全体の層厚は50～60m前後と考えられる。上部層の泥岩・頁岩層には *Yoldia* sp. *Lima* sp. *Chlamys* sp 等の化石を含み、下部層の砂岩には *Ostrea* sp. *Anadara* sp. *Barbatia* sp 等の化石を含む。これらは本地域の東に位置する三次・庄原地方に見られる第三紀層備北層群に含ま

れる化石構成と共通する。備北層群は新生代第三紀中新世の海成層である。風化により黄褐色に着色している。

### III 固結堆積物

#### III a 砂岩(Tf) (藤原層)

藤原層は大朝町棚原, 千代田町川戸, 惣森周辺と二重谷峠付近に分布する砂岩を主とし少量の頁岩をはさむ堆積物である。層序的に上部は流紋岩類の礫を含み凝灰質岩になる。岩体の殆どが千代田町～大朝町にかけて分布する“広島型花崗岩類”に依る熱変性を受けていて非常に硬い。顕微鏡的には円磨度の低い石英・カリ長石・斜長石・酸性火山岩類の岩片を含み、熱変質による雲母が多量に出来ている。本層にはさまれている頁岩の走行・傾斜から見ると、藤原層は各々が東西～北東・南西方向に伸びる背斜軸を持つものと考えられる。高田流紋岩は藤原層の上位に整合的に重なる。

### IV 火山性岩石

#### IV a 流紋岩質岩石(Ry) (“高田流紋岩類”)

本図幅における流紋岩質岩石は“高田流紋岩類”に含まれるもので、本図幅中の中央部分を南北に最も広い面積を占め、甲田町・八千代町から北に高宮町・美土里町を経て北部の島根県との県境迄分布する。その殆どは斑晶に石英・長石・有色鉱物を含み、細粒の花崗斑岩に似た流紋岩質凝灰岩からなる。希に有色鉱物を欠く灰白色緻密な斑状岩もみられる。“高田流紋岩類”は中程度の風化を受けているものが多く、亀裂も多く粘土化が表層部分で著しい。

#### IV b ヒン岩質岩石(P) (貫入岩)

ヒン岩は“高田流紋岩類”及び“古期花崗岩類”の中に小規模な貫入岩体として見られる。甲田町浅塚, 高宮町房後・信木・篠原, 美土里町程原の周辺に見られる。

### V 深成岩

#### V a 花崗斑岩質岩石(Gp) (貫入岩)

花崗斑岩質岩石は“高田流紋岩類”及び“古期花崗岩類”の中に貫入岩体として見られる。吉田町瀬木, 美土里町横田～中北, 下郷・北郷・六郎原・

二重谷周辺・高宮町来女木など本図幅の略中央部分に東西に伸びるレンズ状の岩体が南北に配列している。他に高宮町西田・三田谷周辺に小岩体が見られる。微晶花崗岩質石基の中に径1 cm前後の淡紅色カリ長石と石英の粗粒な斑晶を含む花崗斑岩で、有色鉱物には角閃石と黒雲母が見られる。

#### V b 花崗岩質岩石(HGr) ( “ 広島型花崗岩類 ” )

“ 広島型花崗岩類 ” は図幅の西部大朝町から千代田町にかけての範囲に分布する中粒～粗粒の黒雲母花崗岩である。本岩体の東側に分布する“ 高田流紋岩類 ” や藤原層の砂岩に接する部分では幅数十mの細粒の急冷相が見られ、接する岩石にも熱変質を与えている。風化の程度は著しく、深層風化や真砂化が進んでいる。亀裂も多い。

#### V c 閃緑岩質岩石(Dr) ( “ 新期花崗岩類 ” )

閃緑岩質岩石は“ 高田流紋岩類 ” 及び“ 古期花崗岩類 ” の中に小規模な貫入岩体として分布し、美土里町上城と高宮町野部周辺に見られる。花崗閃緑岩である。分布はごく狭い。

#### V d 花崗岩質岩石(OGr) ( “ 古期花崗岩類 ” )

図幅の東北部高宮町房後から北に作木村にかけて分布する“ 古期花崗岩類 ” がある。従来式敷岩体とされていた花崗岩質岩石で、岩質は中粒～粗粒の比較的均質で角閃石を含む黒雲母花崗岩である。“ 広島型花崗岩類 ” が“ 高田流紋岩類 ” や藤原層などと接する部分に作るような広い範囲の細粒相は見られない。小規模の花崗斑岩質岩石や閃緑岩質岩石の貫入岩体を伴う。著しく風化し真砂化しているものがあり、風化したものでは前述した“ 広島型花崗岩類 ” と肉眼的識別は困難である。

### VI 断 層

本図幅中には船佐山内逆断層帯として知られる衝上断層がある。高宮町土居之内から志部府を経て竹部迫、さらに原山から香六に至る衝上断層で、甲立礫層と備北層群の砂岩の上に北側から花崗岩が走行N75～85W、傾斜N40°～65°で衝上している。この衝上断層の活動時期は甲立礫層の確実な年代が明らかではない事から断定は困難であるが洪積世と考えられている。また、高宮町房後から北に下房後に至る走行N5～14W、略垂直な断層があり“ 古

期花崗岩類”と“高田流紋岩類”を，高宮町川根下原では走行E W，略垂直な断層が“高田流紋岩類”を切っている。他に千代田町明智には花崗岩中に破碎帯幅40cm，走行N85W，傾斜N55°の断層がある。図幅南東方向に追跡したが沖積層や風化した花崗岩類の中に入るため延長は明らかではない。

## VII 斜面崩壊等地質に関連する災害

「八重」図幅の範囲に含まれる自治体より提供を受けた資料によると，大朝町と八千代町を除く急傾斜崩壊危険区域は次のように纏められる。

作木村	7箇所（古期花崗岩類）
千代田町	8箇所（古期花崗岩類）
美土里町	15箇所（流紋岩類14箇所，花崗斑岩類1箇所）
甲田町	1箇所（流紋岩類）
吉田町	5箇所（流紋岩類）
高宮町	12箇所（流紋岩類4箇所，古期花崗岩類5箇所，閃緑岩類1箇所，花崗斑岩類2箇所）

急傾斜崩壊危険区域を岩質別に見ると，流紋岩類24箇所，古期花崗岩類12箇所，広島型花崗岩類8箇所，花崗斑岩類3箇所，閃緑岩類1箇所，合計48箇所である。各々の地域によって卓越する岩質に差があり，急傾斜崩壊危険区域の多寡によって災害の原因の全てを特定の岩石種に関わるものと断定する事は出来ないが，本地域が流紋岩類や花崗岩類の深層風化が著しい地域である事を考慮すると，人為的な地形の改変に伴う風化岩盤の不安定性の増大なども関与していると考えられる。他に本図幅の範囲にある土石流危険渓流と山腹崩壊危険地の殆どは流紋岩類の地域に集中している。これらの災害の誘因が何処に有るのか明らかではないが，治山・治水・地形・地質などの条件が複雑に絡み合ったものであろう。

## VIII 応用地質

### VIII a 鉱床

本図幅の範囲内には稼業中の金属鉱山はない。

採石場は甲田町浅塚において増田砕石工業㈱が流紋岩質岩石を年間37.5万ton採石している。他に美土里町本郷矢賀において花崗斑岩を小規模に採石している。

## VII b 温泉及び鉱泉

高宮町大字来女木字山王平（高宮町老人福祉センター福寿荘）において、湧出量10ℓ/分、13℃（外気温8℃時）の中性冷鉱泉が湧出し、年間5千人近い利用者がある。

謝辞：本図幅の調査に際して、作木村・高宮町・甲田町・千代田町・吉田町・美土里町の関係部局より参考資料の提供を受けた。地質図に付いては広島県地質図（1964）作成における1/50000原図（広島県県民生活部土地対策課所蔵）を参考資料として使用させていただいた。御協力を賜った関係各位に対して厚く御礼を申し上げる。

広島県土地分類基本調査研究会 柴田喜太郎

## 参 考 文 献

広島県（1964）：広島県地質図，同説明書，広島県，pp 182

吉田博直（1961）：中国地方中部の後期中生代の火成活動，広島大学地学研究報告，第8号，pp 39

広島大学理学部地学教室（1953）：地学巡検旅行案内書「船佐」，広島大学理学部地学教室，pp 8～18



# Ⅲ 土 壤 図

## 土壤概説

### 1 山地及び丘陵地の土壤（林地土壤）

「八重」図幅には広島県北部の山県郡大朝町、千代田町、高田郡高宮町、美土里町、甲田町、八千代町、吉田町、双三郡作木村が含まれる。

本図幅内の水系はすべて江の川水系に属しており、標高600～900m級の山地によって幾つかの流域に分けられている。

林地の土壤については地質母材、堆積様式、土色、断面形態等の相違により、表-11に示すとおり3土壤群、25土壤統に分類した。

林地の土壤分布の特徴は次のとおりである。

- (1) 本図幅の大部分は、図幅中央部の美土里町、吉田町、甲田町、および高宮町西部を中心に分布している流紋岩類を母材とした褐色森林土と、図幅西部の大朝町、千代田町、並びに図幅東部の高宮町東部、作木村を中心に分布している花崗岩類を母材とした褐色森林土によって占められている。また、大朝町、千代田町の東部では中生層堆積岩類を母材とした褐色森林土が出現し、高宮町東部、作木村などの標高300～400mの丘陵地では第三紀、第四紀の堆積層を母材とした褐色森林土が小面積出現する。
- (2) 褐色森林土に対する乾性褐色森林土の出現割合は、図幅西部の丘陵地域と図幅東部において高く、図幅北部で低くなる傾向を示している。
- (3) 火山灰を母材とする黒ボク土、褐色森林土が図幅全域の谷沿いの緩凹部に分布している。
- (4) 図幅東部の甲田町稼地の標高280～350mの地域において、赤黄色土が小面積出現する。

表-11 山地，丘陵地の土壤分類表

土壌群	土壌亜群	土壌統群	土 壌 統	記 号	地 質・材 母	地 形
黒ボク土	黒ボク土	厚層 黒ボク土壌	吉和2統	Ysi-2	火山灰	—
		黒ボク土壌	七塚原統	Nan	火山灰	—
			吉和1統	Ysi-1	火山灰	—
褐色 森林土	乾性 褐色 森林土	乾性褐色 森林土壌	奥木戸統	Oku	火山灰	—
			鳴瀬山1統	Nar-1	花崗岩類	山地
			高城1統	Tak-1	花崗岩類	山地
			川北1統	Kwa-1	流紋岩類	山地
		川戸1統	Kdo-1	中生層 堆積岩類	山地	
		(黄褐色系)	石内1統	Isi-1	花崗岩類	山頂平坦面
			光明山1統	Kom-1	流紋岩類	山頂平坦面
			上根1統	Kne-1	中生層 堆積岩類	山頂平坦面
	敷地1統		Shk-1	第四紀層	丘陵地	
	(赤褐色系)	世羅1統	Ser-1	花崗岩類	山地	
		双三1統	Fut-1	流紋岩類	山地	
	褐色 森林土	褐色 森林土壌	鳴瀬山2統	Nar-2	花崗岩類	山地
			高城2統	Tak-2	花崗岩類	山地
			川北2統	Kwa-2	流紋岩類	山地
			川戸2統	Kdo-2	中生層 堆積岩類	山地
		(黄褐色系)	石内2統	Isi-2	花崗岩類	山地
光明山3統			Kom-3	流紋岩類	山地	
上根3統			Kne-3	中生層 堆積岩類	山地	
敷地2統			Shk-2	第四紀層	丘陵地	
(赤褐色系)	双三2統	Fut-2	流紋岩類	山地		
赤黄色土	赤色土	赤色土壌	岡田山統	Oka	全地質	山頂平坦面
	黄色土	黄色土壌	甲立統	Kod	第三紀層	山頂平坦面

## 2 台地，低地地域の土壌（農地土壌）

本図幅内には流紋岩に由来する土性が強粘～粘質の土壌，花崗岩類に由来する粘～壤質の土壌，第三紀または洪積世の堆積物に由来する強粘質の土壌が分布している。また，本図幅の北部には黒ボク土が分布している。出現する土壌群は多湿黒ボク土，黒ボクグライ土，褐色森林土，灰色台地土，グライ台地土，黄色土，褐色低地土，灰色低地土，グライ土及び泥炭土である。分布は地質，地形の影響を受けて複雑であるが，概略は以下のとおりである。

本図幅内の農地は，主として江の川流域の生田川，本村川の本支流域沿いの低地にみられ，本図幅の西部，大朝町，千代田町には強粘～粘質の黒ボク土，黒ボクグライ土及びグライ土が分布している。本図幅の中央部，美土里町には粘質な灰色低地土が分布しており，礫質の灰色低地土の分布も広い。本図幅の東部，高宮町には強粘～粘質のグライ土，粘～壤質あるいは礫質の灰色低地土が広く分布している。

分布する土壌の種類は10土壌群，29土壌統群，56土壌統である。

表-12 台地，低地地域の土壌分類一覽

土 壤 群	土 壤 統 群	土 壤 統
多湿黒ボク土	厚層腐植質多湿黒ボク土	深井沢統 高松統
	表層腐植質多湿黒ボク土	上尾統
黒ボクグライ土	腐植質黒ボクグライ土	岩屋谷統 八木橋統
褐色森林土	細粒褐色森林土	貝原統 上統
灰色台地土	細粒灰色台地土	小向統 喜久田統 早稻原統
	中粗粒灰色台地土	長笹統
グライ台地土	細粒グライ台地土	吉井統 歌代統
	中粗粒グライ台地土	太田統
黄色土	細粒黄色土	赤山統

土 壤 群	土 壤 統 群	土 壤 統
黄 色 土	中粗粒黄色土	大 代 統
	細粒黄色土, 斑紋あり	蓼 沼 統 江 部 乙 統
	中粗粒黄色土, 斑紋あり	都 志 見 統
褐 色 低 地 土	細粒褐色低地土, 斑紋あり	常 万 統
	中粗粒褐色低地土, 斑紋あり	三 河 内 統
	礫質褐色低地土, 斑紋あり	八 口 統
灰 色 低 地 土	細粒灰色低地土, 灰色系	東 和 統 藤 代 統 宝 田 統
	中粗粒灰色低地土, 灰色系	加 茂 統 清 武 統 豊 中 統
	礫質灰色低地土, 灰色系	久 世 田 統 追 子 野 木 統 国 領 統
	細粒灰色低地土, 灰褐色系	金 田 統 多 多 良 統
	中粗粒灰色低地土, 灰褐色系	安 来 統 善 通 寺 統 納 倉 統
	礫質灰色低地土, 灰褐色系	赤 池 統 松 本 統
	灰色低地土, 下層黒ボク	野 市 統 高 崎 統
グ ラ イ 土	細粒強グライ土	富 曾 亀 統 田 川 統 西 山 統 東 浦 統
	中粗粒強グライ土	芝 井 統 滝 尾 統

土 壤 群	土 壤 統 群	土 壤 統
グ ラ イ 土	礫質強グライ土	深 沢 統 蛭 子 統 竜 北 統
	細粒グライ土	千 年 統 浅 津 統
	中粗粒グライ土	新 山 統 八 幡 統
	グライ土, 下層有機質	下 谷 地 統 横 森 統
泥 炭 土		長 富 統

## 土壌細説

### 1 山地及び丘陵地域の土壌（林地土壌）

#### (1) 黒ボク土

##### ア 厚層黒ボク土

###### ○吉和2統（Ysi-2）

二次堆積性の黒色火山灰土で、黒色土層が50cm以上のものである。主として谷沿いの凹部に分布している。図幅北西部の山地部である大朝町の雉子の目山、美土里町の上平山などの沢沿いの斜面に小面積出現する。腐植に富むA層を有し、黒色のA層からB層へ漸変する。A層の土性は微砂質壤土で、土層は比喩的軟らかい。下層は角礫に富む。アカマツ、コナラ、クヌギ等が良好な生育を示している。また、植栽したスギ、ヒノキの成長も良好である。

##### イ 黒ボク土

###### ○七塚原統（Nan）

黒色土層が50cm以下の黒色火山灰土で、山地や丘陵地の傾斜面、谷沿いの緩凹部に広く分布している。図幅北東部の作木村大山、高宮町船木、佐々部などにおいて出現する。腐植に富むA層を有し、黒色のA層からB層、C層に判・漸変する。林業的な生産力が高く、アカマツ、コナラ等の生育

は良好で、スギやヒノキの造林に適している。

#### ○吉和1統 (Ysi-1)

黒色土層が50cm以下の黒色火山灰土で、図幅西部から南部の山地や丘陵地の緩斜面、谷沿いの緩凹部に広く分布している。腐植に富むA層からB層、C層に判・漸変する。下層への腐植の浸透は良好で、下層は半角礫に富む。A層の土性は微砂質壤土である。生産力が高く、アカマツ、コナラ等の生育は良好で、スギやヒノキの造林に適している。

### (2) 乾性褐色森林土

#### ア 乾性褐色森林土壌

##### ○奥木戸統 (Oku)

火山灰を母材とした残積性の弱乾性の褐色森林土で、黒ボク土壌と同様に緩斜面や谷沿いの緩凹部に出現する。高宮町羽佐竹、佐々部、船木、房後などの図幅東部に分布している。土層は深く、腐植に富むA層からB層、C層に漸変する。土性はA層が微砂質壤土、B層、C層が埴土～埴質壤土である。主として広葉樹林となっており、その生育は良好である。スギやヒノキの造林に適している。

##### ○鳴瀬山1統 (Nar-1)

花崗岩類を母材として尾根筋や凸形斜面に発達した乾性の残積土壌である。層位の分化は進んでいるが、土層全体は比較的浅く、下層は砂質である。表層には粗粒状や細粒状構造の発達が見られる。下層への腐植の浸透は少ない。主としてアカマツが生育しているが、その成長は不良である。

##### ○高城1統 (Tak-1)

花崗岩類を母材として、開析の進行した山地の尾根から中腹にかけて広く分布する残積性の乾性および弱乾性褐色森林土である。粒状構造を持つ薄いA層を持ち、土性は砂壤土～埴壤土を示す。下層への腐植の浸透はほとんど無い。主に図幅南西部の大朝町、千代田町において出現する。アカマツ、コナラ等が生育しているがその成長は不良であり、スギ、ヒノキの造林に適さない。表土の流亡が生じやすいため、土地の保全に留意する必要がある。

### ○川北1統 (Kwa-1)

流紋岩類を母材として、開析の進行した山地の尾根部に分布する乾性の褐色森林土である。図幅中央部の広い範囲にわたって出現する。腐植に富む薄いA層を持つが、下層への腐植の浸透は少ない。土性は埴質壤土で、下層は堅密であり角～半角礫に富む。表層に菌糸網層を伴うことがある。アカマツ、コナラが生育しているが、その成長はやや不良である。

### ○川戸1統 (Kdo-1)

中生層を母材として、山地の尾根部に分布する乾性褐色森林土である。図幅西部の千代田町川戸、川西、大朝町岩戸などにおいて小面積出現する。比較的厚いA<sub>0</sub>層を有す。A層は腐植に富むが薄く、下層への腐植の浸透はやや少ない。土性はA層が埴土、B層、C層が埴質壤土で、下層は角礫に富む。アカマツが生育し、その成長は比較的良好である。

## イ 乾性褐色森林土 (黄褐色)

### ○石内1統 (Isi-1)

花崗岩類を母材として、山地の尾根部に分布する残積性の乾性褐色森林土で、土色が黄褐色(10YR)を呈するものである。主として図幅南西部の千代田町春木、後有田において出現する。A層は腐植に富むが薄く、下層への腐植の浸透もほとんどない。土性は埴質壤土である。アカマツが生育しているが成長はやや不良である。

### ○光明山1統 (Kom-1)

流紋岩類を母材として、山地の尾根筋や凸形斜面に分布する残積性の乾性褐色森林土で、土色が黄褐色(10YR)を呈するものである。主として図幅東部の高宮町、図幅南部の吉田町、美土里町において広く出現する。A層は腐植に富むが薄く、下層への腐植の浸透も少ない。土層全体の厚さも薄い。土性は埴質～埴質壤土であり、下層は堅密なため理学性は極めて悪い。アカマツ、コナラが生育しているが、成長はやや不良である。

### ○上根1統 (Kne-1)

中生層堆積岩類を母材として、山地の尾根筋に分布する残積性の乾性褐

色森林土で、土色が黄褐色(10YR)を呈するものである。主として図幅北西部の大朝町雉子の目山中腹や図幅西部の千代田町川戸において小面積出現する。埴質な土壌で角礫に富む。A層は薄く、土壌構造は発達していない。大部分がアカマツ林で、その成長は比較的良好である。

#### ○敷地1統(Shk-1)

第四紀層を母材として、比較的平坦な丘陵地に分布する乾性褐色森林土で、土色が黄褐色(10YR)を呈するものである。図幅東部の高宮町佐々部、作木村大山などにおいて小面積出現する。A層は腐植に富むが薄く、下層への腐植の浸透も少ない。土性は埴質壤土で、下層は円礫に富む。アカマツ、コナラなどが生育するが、その成長は中程度で、植林したヒノキの生育もあまり良好ではない。

### ウ 乾性褐色森林土(赤褐系)

#### ○世羅1統(Ser-1)

花崗岩類を母材として、山地、丘陵地の平坦な尾根部に分布する乾性褐色森林土で、赤色土化作用の影響を強く受けており、土色が赤褐色(5YR)を呈するものである。図幅東部の高宮町佐々部、図幅西部の千代田町蔵迫、春木、有田、今田などで小面積出現する。A層は腐植を含むが比較的薄く、下層への腐植の浸透もほとんどない。土性は埴質壤土である。アカマツ、コナラ等が生育するが、その成長は不良である。

#### ○双三1統(Fut-1)

流紋岩類を母材として、山地や丘陵地の尾根部に分布する乾性褐色森林土で、土色が赤褐色(5YR)を呈するものである。図幅東部の甲田町稼地、図幅中央部の美土里町桑田などで出現する。厚めのAo層を持ち、A層は腐植に富むが比較的薄い。下層への腐植の浸透はほとんどなく、土層全体の厚さも薄い。土性は埴質壤土である。アカマツ、コナラ等が生育するが、その成長はやや不良である。



### (3) 褐色森林土

#### ア 褐色森林土壌

##### ○鳴瀬山2統(Nar-2)

花崗岩類を母材として、鳴瀬山1統と同一地域の中腹～谷部に分布する褐色森林土である。主として図幅北東部の作木村香淀、高宮町佐々部などで出現する。土層全体が非常に深く、下層は石礫を多量に含む。腐植に富むA層は厚く、下層への腐植の浸透も良好である。土性は埴質壤土～壤土である。スギ、ヒノキの造林に適し、いずれもよい成長を示す。

##### ○高城2統(Tak-2)

花崗岩類を母材として、高城1統と同一地域の中腹～谷部に分布する褐色森林土である。主として図幅南西部の大朝町新庄、宮迫、千代田町八重、壬生、蔵迫などで出現する。A層は団粒状構造が発達し、腐植を多く含んでおり、比較的厚い。土性は埴質壤土で土層全体は厚く発達している。アカマツ、コナラが良好な生育を示している。ヒノキの造林も可能である。

##### ○川北2統(Kwa-2)

流紋岩類を母材として、川北1統と同一地域の斜面の中腹～谷部に分布する褐色森林土である。A層は腐植に富み、比較的厚い。下層への腐食の浸透は良好で土層全体も厚い。土性は埴質壤土で軟らかく、角～半角礫を含む。アカマツ、コナラが良好な生育を示している。また、スギ、ヒノキの人工林の成長は良好で、造林に適している。

##### ○川戸2統(Kdo-2)

中生層を母材として、川戸1統と同一地域の山地斜面や谷部に広く分布する褐色森林土である。A層は腐植に富んでおり非常に厚い。下層への腐植の浸透も良好である。土性は埴質壤土で軟らかく、角～半角礫を多量に含む。スギ、ヒノキの造林適地で、その成長も良好である。

#### イ 褐色森林土壌(黄褐色系)

##### ○石内2統(Isi-2)

花崗岩類を母材として、石内1統と同一地域の谷部に分布する褐色森林土壌で、土色が黄褐色(10YR)を呈するものである。粒状～団粒状構造の

発達したA層を有し、層位の分化も発達しているが、全般に砂質で、未熟土的な傾向がある。アカマツ林となっているが、その成長は比較的良好である。ヒノキの造林も可能である。

#### ○光明山3統 (Kom-3)

花崗岩類を母材として、光明山1統と同一地域の斜面下部に分布する褐色森林土壌で、土色が黄褐色(10YR)を呈するものである。土層は比較的厚く、下層への腐植の浸透も進んでいる。土性は埴質壤土～壤土であり、下層は半角礫に富む。スギ、ヒノキの造林も行われており、その成長は良好である。

#### ○上根3統 (Kne-3)

中生層堆積岩類を母材として、上根1統と同一地域の山地の中腹から谷部にかけて広く分布する褐色森林土壌で、土色が黄褐色(10YR)を呈するものである。Ao層はやや厚く、粒状～団粒状構造の発達した比較的厚いA層を有する。土性は埴質で、下層は角礫に富み、腐植の浸透も良好である。土層全体が深く、軟質である。スギ、ヒノキの造林適地である。

#### ○敷地2統 (Shk-2)

第四紀堆積物を母材として、敷地1統と同一地域の丘陵地斜面に分布する褐色森林土で、土色が黄褐色(10YR)を呈するものである。A層は腐植に富み、下層への腐植の浸透も良好である。土性は埴質壤土で全体に軟らかい。アカマツ、コナラが生育するがその成長は中程度である。

### ウ 褐色森林土壌(赤褐色系)

#### ○双三2統 (Fut-2)

流紋岩類を母材として、双三1統と同一地域の斜面に小面積出現する褐色森林土で、土色が赤褐色(5YR)を呈するものである。A層は腐植に富み、下層への腐植の浸透はやや不良である。土性は埴土～埴質壤土で角礫を含む。アカマツの成長はやや良好で、ヒノキの造林も可能である。

#### (4) 赤色土

##### ア 赤色土壌

###### ○岡田山統 (Oka)

基岩とはあまり関係なく、標高 300m 程度の未開析の丘陵地や山頂平坦面等に分布する赤色土で、土色が赤色 (2.5 YR) を呈するものである。図幅東部の甲田町上甲立において小面積出現する。A 層は腐植を含むが薄く、認められないこともある。下層への腐植の浸透も不良で、土層全体が薄い。土性は壤土で堅密である。アカマツが生育しているが、その成長は一般に不良である。

#### (5) 黄色土

##### ア 黄色土壌

###### ○甲立統 (Kod)

甲立礫層を母材として、主に未開析の丘陵地や山頂平坦面に分布する赤黄色土で、土色が黄色 (2.5 Y) を呈するものである。図幅東部の甲田町上甲立、高宮町門田などで小面積出現する。Ao 層はやや厚い。土層は粘質で堅く、腐植の浸透の悪い未熟な形態を持った土壌である。土性は埴土～埴質壤土で、下層には円礫を含む。アカマツ、コナラ等の天然生の混交林になっているが、成長は概して不良である。この土壌が出現する場所は緩斜面になっており、農耕地や牧草地に利用されていることが多い。

各土壌統の代表地点及び断面柱状図は「土壌図」に記載した。

広島県立林業試験場	水野邦彦
〃	升原一介
〃	涌嶋智

## 2 台地、低地地域の土壌（農地土壌）

### (1) 多湿黒ボク土

本土壌は、全層腐植質（あるいは多腐植質）火山灰層からなるか、表層および次表層が腐植質（あるいは多腐植質）火山灰層からなるか、全層もしくはほぼ全層が非腐植質火山灰層からなる土壌であって、土層中に斑紋（ときにはマンガン結核）がみられる土壌である。堆積様式は水積または風積で、ときに崩積の場合もある。本土壌は沖積低地、谷底地や台地、丘陵地内の凹地などに分布している。

#### ア 厚層腐植質多湿黒ボク土

##### 深井沢統（Fki）

本土壌は、黒褐色の腐植層を有し、腐植層の厚さは50cm以上で、腐植含量は5～10%である。主要土層の土性は、強粘～粘質である。

本図幅の千代田町、美土里町に分布する。

##### 高松統（Tkm）

本土壌は、黒褐色の腐植層を有し、腐植層の厚さは50cm以上で、腐植含量は5～10%である。主要土層の土性は、壤（砂）質である。

本図幅の千代田町、作木村に分布する。

#### イ 表層腐植質多湿黒ボク土

##### 上尾統（Age）

本土壌は、黒褐色の腐植層を有し、腐植層の厚さはほぼ25～50cmで、腐植含量は5～10%である。主要土層の土性は、壤（砂）質で、次層は灰～灰褐色を呈する。

本図幅の千代田町、大朝町に点在する。

### (2) 黒ボクグライ土

本土壌は、全層腐植質（あるいは多腐植質）火山灰層からなり、全層または作土を除くほぼ全層、あるいは下層がグライ化しているか、表層（および次表層）が腐植質（ときに多腐植質）火山灰層からなり、下層が無機質グライ層からなる土壌である。堆積様式は、大部分が水積であるが、ときに風積または崩積の場合もある。本土壌は谷底地、沖積平野あるいは台地内の凹地などに分布する。一般的に地下水位が高く排水不良で、このため全層または下層がグライ化したものである。

#### ア 腐植質黒ボクグライ土

#### 岩屋谷統 (Iwy)

本土壤は、黒褐色の腐植層を有し、腐植層の厚さは50cm以上で、腐植含量は5～10%である。腐植層の一部あるいは全部がグライ化している。主要土層の土性は、強粘～粘質である。

本図幅の美土里町に分布する。

#### 八木橋統 (Ygh)

本土壤は、黒褐色の腐植層を有し、腐植層の厚さはほぼ25～50cmで、腐植含量は5～10%である。主要土層の土性は、強粘～粘質である。土層50cm内外より下部がグライ層となっている。

本図幅の西部、千代田町川戸、大朝町岩戸に分布する。

### (3) 褐色森林土

本土壤は、暗褐色の表層をもち、その下に黄褐色の次表層がある。母材は固結堆積岩、固結火成岩などで、堆積様式は残積、洪積世堆積、崩積である。分布する地形は山麓、丘陵地の斜面および台地上の平坦地である。

#### ア 細粒褐色森林土

##### 貝原統 (Kib)

本土壤は、主に固結堆積岩に由来する残積性の土壌で、主要土層の土性は強粘質で、土色は黄褐色を呈する。次表層の反応は弱酸性である。未風化小角礫を含む場合がある。

本図幅の東部、高宮町原田に分布する。

##### 上統 (Kmi)

本土壤は、主に固結堆積岩に由来する残積性の土壌で、主要土層の土性は粘質で、土色は黄褐色を呈する。次表層の反応は弱酸性である。

本図幅の全域に点在する。

### (4) 灰色台地土

本土壤は主として台地、丘陵地に分布し、全層またはほぼ全層が灰色ないし灰褐色を呈する土壌である。一般に土層中に斑紋が存在する土壌である。母材は一定しないが、堆積様式は残積、崩積及び洪積世堆積である。

#### ア 細粒灰色台地土

##### 小向統 (Kmk)

本土壤は、残積(崩積)性あるいは洪積世堆積性の土壌である。主要土

層の土性は強粘質で、土色は灰～灰褐色を呈する。土層中に斑紋が存在するが、マンガン結核はみられない。

本図幅の東部、高宮町原田に分布する。

#### 喜久田統 (Kik)

本土壌は、残積(崩積)性あるいは洪積世堆積性の土壌である。主要土層の土性は粘質で、土色は灰～灰褐色を呈する。土層中に斑紋が存在するが、マンガン結核はみられない。

本図幅の中央部、美土里町横田、東部、高宮町原田、佐々部に分布する。

#### 早稲原統 (Wsh)

本土壌は、喜久田統に類似するが、土層中にマンガン結核がみられることにより喜久田統と区別される。

本図幅の西部、大朝町宮迫、中央部、美土里町横田、郷、東南部、吉田町相合に分布する。

### イ 中粗粒灰色台地土

#### 長笹統 (Ngz)

本土壌は、残積(崩積)性あるいは洪積世堆積性の土壌である。主要土層の土性は壤質で、土色は灰～灰褐色を呈する。土層中に斑紋が存在する。

本図幅の西部、千代田町川戸に分布する。

## (5) グライ台地土

本土壌は、主として台地、丘陵地に分布し、全層もしくは作土を除くほぼ全層がグライ層からなるか、または次表層は灰色ないし灰褐色の土層からなり、下層がグライ層からなる土壌である。母材は一定せず、堆積様式は残積崩積及び洪積世堆積など多岐にわたる。

### ア 細粒グライ台地土

#### 吉井統 (Yos)

本土壌は、全層または作土を除くほぼ全層がグライ層からなる土壌である。主要土層の土性は、強粘質である。

本図幅の東部、高宮町原田に分布する。

#### 歌代統 (Uta)

本土壌は、吉井統に類似するが、主要土層の土性が粘質であることにより吉井統と区別される。

本図幅の東部、高宮町房後に分布する。

## イ 中粗粒グライ台地土

太田統 (Ota)

本土壌は、土層50cm内外より下部がグライ層あるいは上層50cm以内に厚さ20cm以上のグライ層が存在する土壌である。主要土層の土性は、壤質である。

本図幅の西部、大朝町宮迫、東部、高宮町佐々部、船木に分布する。

## (6) 黄色土

本土壌は、主として丘陵地、台地及びその斜面に分布し、全層またはほぼ全層が黄色(黄褐色)を呈する土壌で、堆積様式は残積あるいは洪積世堆積である。

### ア 細粒黄色土

赤山統 (Aky)

本土壌は残積性の土壌で、主要土層の土性は強粘質である。土色は黄色を呈する。次表層の反応は強酸性である。

本図幅の大朝町、高宮町に分布する。

### イ 中粗粒黄色土

大代統 (Osh)

本土壌は残積性の土壌で、主要土層の土性は壤質である。土色は黄色を呈する。

本図幅の千代田町、高宮町に分布する。

### ウ 細粒黄色土、斑紋あり

蓼沼統 (Tdn)

本土壌は、全層あるいは作土を除くほぼ全層が黄～黄褐色を呈する土壌で、作土あるいは作土下に斑紋をもつ土壌である。主要土層の土性は、強粘質である。

本図幅の東部、高宮町羽佐竹に分布する。

江部乙統 (Ebe)

本土壌は、蓼沼統に類似するが、主要土層の土性が粘質であることにより蓼沼統と区別される。

本図幅の美土里町、高宮町に分布する。

### エ 中粗粒黄色土、斑紋あり

都志見統 (Tsm)

本土壤は、全層あるいは作土を除くほぼ全層が黄～黄褐色を呈する土壌で、作土あるいは作土下に斑紋をもつ土壌である。主要土層の土性は、壤質である。

本図幅の中央部、高宮町来女木、東部、高宮町佐々部に分布する。

## (7) 褐色低地土

本土壤は、沖積低地に分布し、全層あるいはほぼ全層が黄褐色を呈する土壌である。なお、下層に灰色または灰褐色の土層が出現する土壌でも、次表層の主要部分が黄褐色を呈する場合には本土壤に含める。本土壤は海海岸沖積平野、谷底地、扇状地などの排水良好な地域に分布する。同一地域内でも、灰色低地土やグライ土にくらべやや高い地形面、例えば自然堤防などにみられ、おおむね地下水位は低い。地下水位の変動や水田利用の結果、土層中に斑紋や結核をもつことが多い土壌である。

### ア 細粒褐色低地土、斑紋あり

常万統 (Jom)

本土壤は、非固結堆積岩に由来する水積性の土壌で、主要土層の土性は粘質で、土色は黄褐色を呈する。土層中に斑紋が存在する。

本図幅の南西部、千代田町川西に分布する。

### イ 中粗粒褐色低地土、斑紋あり

三河内統 (Mik)

本土壤は、非固結堆積岩に由来する水積性の土壌で、主要土層の土性は壤質で、土色は黄褐色を呈する。土層中に斑紋とマンガン結核が存在する。

本図幅の東部、高宮町船木に分布する。

### ウ 礫質褐色低地土、斑紋あり

八口統 (Ytg)

本土壤は、非固結堆積岩に由来する水積性の土壌で、土層30～60cm以内より下部が礫層となる土壌で、礫層ならびに礫層上部の土性は壤～砂質である。土色は黄褐色を呈する。土層中に斑紋が存在する。

本図幅の東部、高宮町船木に分布する。

## (8) 灰色低地土

本土壤は沖積低地に分布し、全層あるいはほぼ全層が灰色ないし灰褐色を呈する土壌であるが、下層に腐植質火山灰層、泥炭層及び黒泥層などが埋没した



ものも含まれる。地下水位の変動や水田利用の結果、土層中に斑紋や結核をもつことが多い土壌である。

#### ア 細粒灰色低地土，灰色系

##### 東和統 (Tow)

本土壌，非固結堆積岩に由来する水積性の土壌で，主要土層の土性は強粘質で，土色は灰色を呈する。土層中に斑紋が存在する。

本図幅の東部，高宮町原田に分布する。

##### 藤代統 (Fjs)

本土壌は，非固結堆積岩に由来する水積性の土壌で，主要土層の土性は粘質で，土色は灰色を呈する。土層中に斑紋が存在する。

本図幅のほぼ全域に分布する。

##### 宝田統 (Tkr)

本土壌は，藤代統に類似するが，土層中にマンガン結核と構造がみられることにより藤代統と区別される。

本図幅の東部，甲田町下原に分布する。

#### イ 中粗粒灰色低地土，灰色系

##### 加茂統 (Km)

本土壌は，非固結堆積岩に由来する水積性の土壌で，主要土層の土性は壤質で，土色は灰色を呈する。土層中に斑紋が存在する。

本図幅のほぼ全域に分布する。

##### 清武統 (Kyt)

本土壌は，加茂統に類似するが，土層中にマンガン結核がみられることにより加茂統と区別される。

本図幅の千代田町，美土里町，吉田町，作木村に分布する。

##### 豊中統 (Toy)

本土壌は，加茂統に類似するが，主要土層の土性が砂質であることにより加茂統と区別される。

本図幅の千代田町に分布する。

#### ウ 礫質灰色低地土，灰色系

##### 久世田統 (Kus)

本土壌は，土層30～60cm以内より下部が礫層となる水積性の土壌で，土色は灰色を呈する。礫層ならびに礫層上部の土性は，強粘～粘質である。土層中に斑紋が存在する。

本図幅の中央部，千代田町生田，横田に分布する。

#### 追子野木統 (Okk)

本土壤は，久世田統に類似するが，礫層ならびに礫層上部の土性が壤～砂質であることにより久世田統と区別される。

本図幅の西部，大朝町岩戸，南西部，千代田町八重，北西部高宮町川根に分布する。

#### 国領統 (Kok)

本土壤は，土層 0～30cm 以内より下部が礫層となる水積性の土壌で，土色は灰色を呈する。土性は多岐にわたるが，一般に壤質である。土層中に斑紋が存在する。

本図幅のはば全域に分布する。

### エ 細粒灰色低地土，灰褐系

#### 金田統 (Kan)

本土壤は非固結堆積岩に由来する水積性の土壌で，主要土層の土性は粘質で，土色は灰褐色を呈する。土層中に斑紋が存在する。

本図幅の南西部，千代田町八重，南部，吉田町吉田に分布する。

#### 多多良統 (Ttr)

本土壤は，金田統に類似するが，土層中にマンガン結核がみられることにより金田統と区別される。

本図幅の千代田町，美土里町，吉田町，甲田町に分布する。

### オ 中粗粒灰色低地土，灰褐系

#### 安来統 (Ysk)

本土壤は，非固結堆積岩に由来する水積性の土壌で，主要土層の土性は壤質で，土色は灰褐色を呈する。土層中に斑紋が存在する。

本図幅の南東部，吉田町吉田，甲田町下小原，東部，甲田町稼地に分布する。

#### 善通寺統 (Znt)

本土壤は，安来統に類似するが，土層中にマンガン結核がみられることにより安来統と区別される。

本図幅の千代田町，甲田町に分布する。

#### 納倉統 (Nok)

本土壤は，善通寺統に類似するが，主要土層の土性が砂質であることにより善通寺統と区別される。

本図幅の南東部，吉田町吉田，甲田町下小原に分布する。

#### カ 礫質灰色低地土，灰褐色系

##### 赤池統 (Ak)

本土壌は，土層30～60cm以内より下部が礫層となる水積性の土壌で，土色は灰褐色を呈する。礫層ならびに礫層上部の土性は強粘～粘質である。土層中に斑紋が存在する。

本図幅の南部，吉田町多治比に分布する。

##### 松本統 (Mtm)

本土壌は，土層30～60cm以内より下部が礫層となる水積性の土壌で，土色は灰褐色を呈する。礫層ならびに礫層上部の土性は壤～砂質である。土層中に斑紋が存在する。

本図幅の南西部，千代田町八重に分布する。

#### キ 灰色低地土，下層黒ボク

##### 野市統 (Noi)

本土壌は，灰～灰褐色の土層に続いて下層(30～50cm付近)に黒～黒褐色の腐植質火山灰層の埋没土層が出現する土壌である。主要土層の土性は粘質である。土層中に斑紋が存在する。

本図幅の大朝町，千代田町，高宮町に点在する。

##### 高崎統 (Tks)

本土壌は，野市統に類似するが，主要土層の土性が壤質であることにより野市統と区別される。

本図幅の西部，大朝町新庄，千代田町川戸，東部，高宮町佐々部，船木に分布する。

### (9) グライ土

本土壌は沖積低地に分布し，全層もしくはほぼ全層がグライ層からなるか，次表層がグライ層からなり，泥炭，黒泥または腐植質火山灰の埋没土層をもつか，あるいは次表層は灰色土層からなり，下層はグライ層からなる土壌などを含んでいる。一般に表層腐植層はない。母材は非固結堆積岩が主であるが，ときに下層が植物遺体，非固結火成岩の場合がある。

#### ア 細粒強グライ土

##### 富曾亀統 (Fsk)

本土壌は，全層もしくはほぼ全層がグライ層からなる土壌で，主要土層

の土性は強粘質である。土層の上部30cm以内に斑紋が存在する。

本図幅の東部，高宮町原田に分布する。

田川統 (Tgw)

本土壤は，富曽亀統に類似するが，土層30cm以下に斑紋が存在することにより富曽亀統と区別される。

本図幅の東部，高宮町原田に分布する。

西山統 (Nsh)

本土壤は，全層もしくはほぼ全層がグライ層からなる土壌で，主要土層の土性は粘質である。土層の上部30cm以内に斑紋が存在する。

本図幅の大朝町，千代田町，高宮町に分布する。

東浦統 (Hgs)

本土壤は，西山統に類似するが，土層30cm以下に斑紋が存在することにより西山統と区別される。

本図幅の千代田町，吉田町，甲田町，高宮町に点在する。

#### イ 中粗粒強グライ土

芝井統 (Shb)

本土壤は，全層もしくはほぼ全層がグライ層からなる土壌で，主要土層の土性は壤質である。土層の上部30cm以内に斑紋が存在する。

本図幅の西部，大朝町宮迫，東部，高宮町羽佐竹に分布する。

滝尾統 (Tko)

本土壤は芝井統に類似するが，土層30cm以下に斑紋が存在することにより芝井統と区別される。

本図幅の南西部，千代田町八重に分布する。

#### ウ 礫質強グライ土

深沢統 (Fkz)

本土壤は，全層もしくはほぼ全層がグライ層からなる土壌で，土層30～60cm以内より下部が礫層となる土壌である。礫層ならびに礫層上部の土性は強粘～粘質である。土層30cm以下に斑紋が存在する。

本図幅の東部，高宮町房後に分布する。

蛭子統 (Ebs)

本土壤は，全層もしくはほぼ全層がグライ層からなる土壌で，土層30～60cm以内より下部が礫層となる土壌である。礫層ならびに礫層上部の土性は壤～砂質である。土層の上部30cm以内に斑紋が存在する。

本図幅の北部，高宮町川根に分布する。

#### 竜北統 (Ryu)

本土壤は，全層もしくはほぼ全層がグライ層からなる土壤で，土層0～30cm以内より下部が礫層となる土壤である。壤～砂質である。土層の上部30cm以内に斑紋が存在する。

本図幅の東部，高宮町房後に分布する。

### エ 細粒グライ土

#### 千年統 (Cht)

本土壤は，土層50cm内外より下部がグライ層からなる土壤で，主要土層の土性は粘質である。土層中に斑紋が存在する。

本図幅の美土里町，高宮町に点在する。

#### 浅津統 (Aso)

本土壤は，千年統に類似するが，土層中に構造がみられることにより千年統と区別される。

本図幅の千代田町に点在する。

### オ 中粗粒グライ土

#### 新山統 (Niy)

本土壤は，土層50cm内外より下部がグライ層からなる土壤で，主要土層の土性は壤質である。土層中に斑紋が存在する。

本図幅の千代田町，高宮町に点在する。

#### 八幡統 (Ywt)

本土壤は，土層50cm内外より下部がグライ層からなる土壤で，主要土層の土性は砂質である。土層中に斑紋が存在する。

本図幅の北東部，高宮町川根に分布する。

### カ グライ土，下層有機質

#### 下谷地統 (Syj)

本土壤は，土層50cm内外より下部がグライ層ならびに泥炭層となる土壤で，主要土層の土性は壤質である。

本図幅の西部，千代田町川戸に分布する。

#### 横森統 (Ykm)

本土壤は，腐植層の厚さがほぼ25～50cmで，土層50cm内外より下部がグライ層ならびに黒泥層となる土壤である。主要土層の土性は粘質である。

本図幅の南西部，千代田町八重に分布する。

## (10) 泥炭土

本土壤は、全層もしくは作土を除くほぼ全層が泥炭層からなるか、表層あるいは次表層が泥炭層からなり、下層が黒泥層またはグライ層からなる土壌である。本土壤の母材は湿生植物の遺体であり、下層は無機質からなる場合もある。堆積様式は集積である。本土壤は自然堤防や砂丘などの後背湿地、山麓や山間の低地など、排水不良の窪地状地形に発達したものが多い。

### 長富統 (Nag)

本土壤は、ほぼ全層が植物遺体を母材とする泥炭土壌である。

本図幅の西部、千代田町川戸に分布する。

広島県立農業技術センター 谷本俊明

## Ⅳ 水系図及び谷密度図

「八重」図幅は、広島県の北西部に位置する図幅である。島根県と接する図幅の北側の山地は、北北東—西南西方向にのびる中国山地の脊梁部に相当する。本図幅内の脊梁山地の山頂高度が、およそ800～900mの範囲にあり中国山地の中では比較的低い部分にあっている。図幅の南側の山地は、山頂高度がやや下がり500～700mの小起伏山地が発達している。本図幅内の山地は、いわゆる中国山地の侵食小起伏面の中位面（吉備高原面）に相当し、この地形面を江（ごう）の川水系の諸河川が下刻している。この山地をうがつ水系は、脊梁山地の南流または東流しながら流下するものの、本図幅の東側に位置する三次盆地に集まり、最終的には日本海側に流出する江の川水系となっている。

本図幅の水系網の形状は、周辺の図幅に見られるほど顕著ではないがやはり地質構造を反映して、全体としては北東—南西方向と北西—南東方向を基本とする格子状の水系網を呈している。例えば小河川ではあるが、犬伏山地（地形区：Ii）を開析して北東へ流下する田草川と、羽須美山地（地形区：Id）の境界を南東に流下し田草川と直交に合流する長瀬川である。

なお、横田台地（地形区：Ⅲa）では、谷底の谷幅はやや広がっている。

また、吉備高原面をうがつ河川の上流部には、しばしば河床勾配が急変する遷急点にあたる峡谷部が存在する。その上流部の河床勾配は緩く、しばしば谷幅も広い前輪廻の谷が残っている。このような河川地形の特徴は、奥深い谷を上り詰めると、突然眼前に人の住む土地利用景観がひらけるといった意外性を与え、中国山地の景観として共通したものになっている。例えば本地域では、大塩山山地（地形区：Io）と平家ヶ城山山地（地形区：Ip）の境界部を流れる江の川（可愛（えの）川）は、流紋岩から両山地の境界部で峡谷を形成している。この峡谷の上流側の大塩山山地と火野山山地（地形区：Is）との境界をなす谷が前輪廻の谷となっている。また、風越山山地（地形区：Ig）を横断して南東流する本村川は、この山地内で峡谷となり、その上流側は段丘の発達した前輪廻の谷である横田台地（地形区：Ⅲa）となっている。なお、本村川が風越山山地を横断する谷の部分は、横田台地を形成した旧河川の流域を後から河川争奪したものと判断される。

次に、谷密度について見てみよう。本図幅の全体的な谷密度数の出現頻度分布は、図4のグラフに示すようになっている。もっとも出現頻度の高い谷密度数は、21～25で、ついで26～30である。この二つの谷密度数が他の値のものより突出していることが図4によってわかる。突出するこれらの値は、花崗岩山地の谷密度

数と比較するとやや低い値となっている。花崗岩山地は、一般に深層風化がすすみ、表層部がマサ化して細かく谷が入り、谷密度が高くなりやすい。これに対してやや低い谷密度数を示すのは、本図幅を埋める山地の大部分が侵食に対して抵抗性の高い流紋岩類で構成されてことに起因していると考えられる。

広島大学文学部 藤原健藏  
東京都立大学理学部 堀 信行



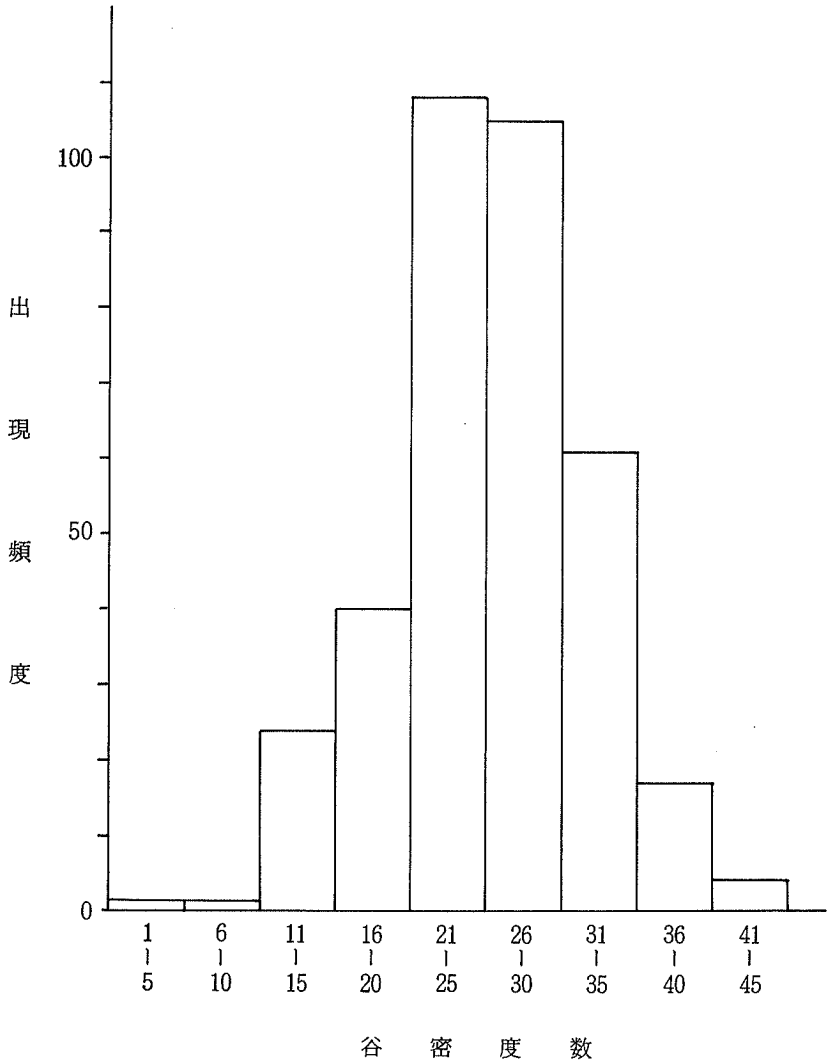


図4 「八重」図幅の谷密度数の出現頻度分布図

## V 傾斜区分図

本図幅は江の川の上流部にあたり、大部分が山地からなっている。とりわけ図幅西部は丘陵や中起伏山地、東部は丘陵や小起伏山地で占められている場合が多い。江の川の本流は、八千代町付近まで南東方向に流れ、土師ダムの手前で90度向きを変え、三次盆地に向かって北東方向に流れる。斜面の傾斜は本図幅ではかなり地質に規定されている場合が多い。すなわち、傾斜8～15度の地域は風化が進んだ花崗岩質岩石からなる丘陵地が多く、それ以上の傾斜を持つ斜面はほとんど高田流紋岩からなる小～中起伏の山地である。

傾斜3度未満の地域は、千代田低地、吉田低地などの低地帯と、江の川の比較的大きい支流に沿ってごくわずかに発達する谷底平野にのみ見られる。傾斜3～8度の地域は、横田台地などの谷底平野縁辺の河成段丘が発達している場所や土石流性の沖積錐からなる山麓斜面に分布している。また、高宮丘陵地などの中で、面積は狭いながらも特に緩やかな傾斜をもった斜面が見られる場合があり、この傾斜帯に属している。傾斜8～15度の地域は、高宮、大朝、千代田などの丘陵地のほとんどすべてが湖の傾斜帯に属している。また、山頂小起伏面の一部や、沖積錐からなる山地斜面にもこの傾斜帯に含まれるものが多い。傾斜15～20度の地域は、大部分の小起伏山地や中起伏山地の比較的傾斜の緩い山麓斜面に多く見られる。また、山頂・山腹平坦面の一部もこの傾斜になっており、図幅全域にわたって最も広く分布している。傾斜20～30度の地域には、低起伏山地の一部と中起伏山地の大部分がこれに含まれている。中起伏山地が分布する図幅北西から南東にかけて帯状にこの傾斜帯に属している。傾斜30～40度の地域は、図幅北部の江の川本流及びその支流の田草川の谷壁斜面によく分布している。また、図幅西半分の中起伏山地を刻む支流の谷壁斜面の一部や、火神城山と津々羅山の南斜面にもこの傾斜帯に属するところが見られる。いずれにしてもこのような急傾斜地は、全体から見ればごく限られた地域にしか分布していない。傾斜40度以上の急傾斜地は、江の川本流が図幅西部の大塩山南西麓で流れの向きを東から南に90度変える攻撃斜面にのみ分布しており、江の川本流がこの地点で活発に測方侵食を続けていることが伺われる。

広島大学文学部

藤原 健 藏

東京都立大学理学部

堀 信 行

広島大学総合地誌研究資料センター

前 杢 英 明

広島大学大学院

細 矢 卓 志

## Ⅵ 土地利用現況図

### 1 農 地

本図幅には、高田郡美土里町の全域と高宮町の大部分ならびに高田郡甲田町、吉田町、八千代町、山県郡大朝町、千代田町及び双三郡作木村の一部が含まれる。

本図幅内の農業は水稻を主体に行われており、水田は主に江の川流域の生田川、本村川の本支流域沿いの低地に分布する。美土里町の平成2年の農家数は879戸で、専業農家は17%、第1種兼業農家は10%、第2種兼業農家は73%である。経営耕地面積は732haで、そのうち水田が92%を占める。1農家当たりの経営耕地面積は0.83haである。

高宮町の農家数は1,210戸で、専業農家は24%、第1種兼業農家は6%、第2種兼業農家は70%である。経営耕地面積は1,100haで、そのうち水田が86%を占める。1農家当たりの経営耕地面積は0.91haである。高宮町では酒米（八反錦1号、雄町など）の栽培が盛んで、水稻作付け面積のうち50%以上が酒米である。高宮町は美土里町に比べて湿田・半湿田の割合が高く、高宮町の水田に占める湿田・半湿田の割合は、湿田が28%、半湿田が6%である。

普通畑、樹園地は河川沿いの山麓から山腹斜面に点在している。美土里町、高宮町の経営耕地面積に占める普通畑の割合は両町とも10%以下である。樹園地は、両町とも1%以下と少ない。

広島県立農業技術センター 谷本俊明

## 2 林 地

本図幅の森林は、大別すると図幅の北部を占め島根県との県境に接する針葉樹人工林地帯及び天然広葉樹林帯と、図幅の中南部を占める千代田町、美土里町南部、高宮町南部、吉田町、甲田町を中心とする天然針葉樹林帯に分けられる。

図幅の北部を占める針葉樹人工林地帯は、その約半数が国有林であり主要な樹種は、スギ、ヒノキである。また、この図幅の森林の人工林率は約32%で、Ⅲ～Ⅶ齢級に偏在しており、森林の公益的機能の発揮や、将来の木材需要に応えるためにも間伐等の適切な施業を図る必要がある。

天然広葉樹林帯の主要な樹種は、コナラ、クヌギ、クリ等の落葉広葉樹である。最近では、広葉樹林に対する評価が見直され、景観保全、野生生物の保護等の観点からも森林の維持、保全に努める必要がある。

図幅の中南部を占める天然針葉樹林帯は、そのほとんどが天然アカマツ林で、近年、松くい虫の被害が発生しており、公益的機能が高く、景観上保全を必要とする松林やマツタケ林等守るべき松林については、その徹底した防除が必要である。

表-13 森林面積構成比

(単位：%)

		針葉樹		広葉樹		その他
		天然林	人工林	天然林	人工林	
山県郡	千代田町	42	33	23	0	2
	大朝町	19	49	31	0	1
高田郡	吉田町	49	26	22	0	3
	高宮町	44	23	31	0	2
	甲田町	53	18	27	0	2
	八千代町	37	30	32	0	1
	美土里町	32	35	32	0	1
双三郡	作木村	4	38	55	0	3

資料：広島県林政課「江の川上流地域森林変更計画書」

(平成3年9月18日)

大阪営林局「江の川上流国有林の地域別の森林計画書」

(平成4年4月1日)

広島県林務部林政課 垣内孝正

〃 川上弘之

1994年3月 印刷発行

都道府県土地分類基本調査

八 重

編集発行 広島県県民生活部土地対策課  
広島市中区基町10-52  
TEL (082) 228-2111

印刷 株式会社 三 共  
TEL (082) 228-7163